事務事業及び予算の執行実績

（令和６年度分「一部、令和７年度分を含む」）

静岡県立袋井特別支援学校

目　　次

□□□□□□

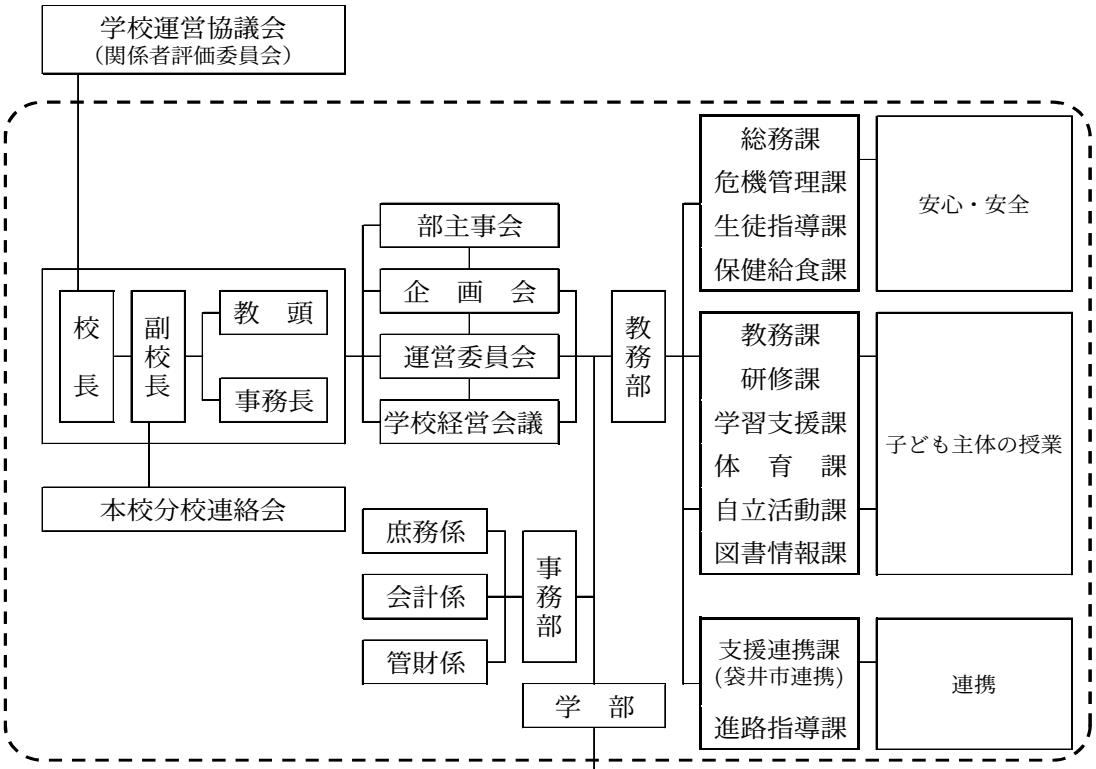
事務事業の概要(本校)

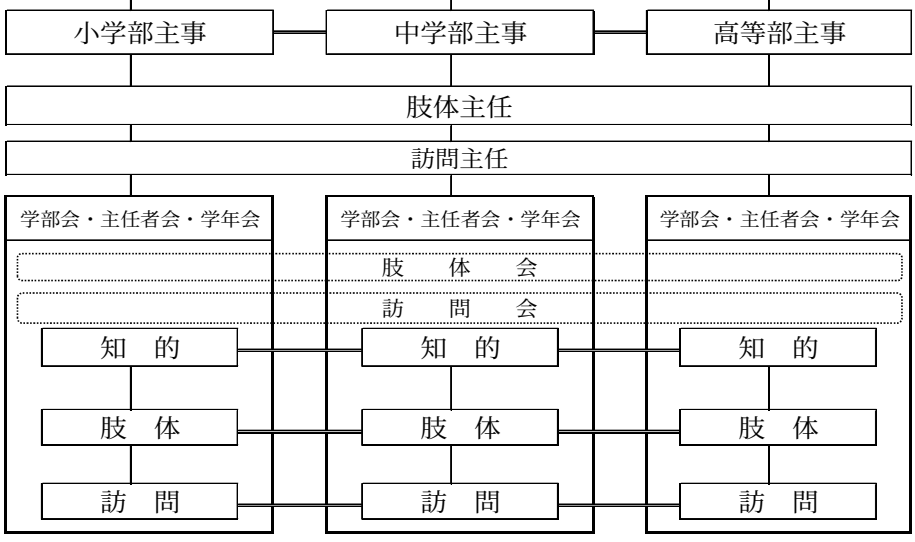
1　概　況

(1) 学校の沿革

平成 元. 4. 1　袋井地区新設養護学校設立準備委員長他２人発令、新設学校準備開始
元. 6.30　学校敷地の造成工事竣工
元.12.23　静岡県議会11月定例会において、静岡県立袋井養護学校の設置が決定
2. 1.10　開校準備協力委員４人発令
2. 2. 1　設立準備委員（事務）１人発令
2. 3.16　高等部棟校舎建築工事竣工（RC２F　1,583.30㎡）
2. 4. 1　静岡県立袋井養護学校開校
静岡県立静岡北養護学校東遠分教室を本校に移管
2. 4　6　開校式、第１回小中学部入学式挙行
2. 7.31　管理棟校舎建築工事竣工（RC２F　2,112.18㎡）
2. 8.31　小中学部棟校舎建築工事竣工（RC３F　4,054.43㎡）
2. 9.28　バスターミナル工事竣工
3. 1. 8　体育館建築工事竣工（S１F　500.00㎡）・運動場造成工事竣工
3. 3.15　プール建築工事竣工
3. 4. 1　高等部設置
3. 4. 6　第１回高等部入学式挙行
3.11.15　校舎落成記念式典挙行
5. 3.23　高等部棟昇降機設置工事竣工（RC２F　27.56㎡）
8. 4. 1　高等部に肢体重複学級開設
10. 4. 1　高等部訪問教育開設
11.11.20　10周年記念のつどい挙行
12. 1.31　管理棟校舎（厨房）増築工事竣工（RC１F　14.25㎡）
16. 4. 1　高等部知的重複学級開設
17. 6.30　仮設校舎建築工事竣工（S２F　456.98㎡）
18. 4. 1　静岡県立池新田高等学校内に御前崎分校開校
20. 4. 1　静岡県立袋井特別支援学校に校名変更
21.12.21　20周年記念式典挙行
22. 4. 1　静岡県立磐田北高等学校内に磐田見付分校開校
26. 4. 1　校内に掛川特別支援学校準備委員会を設置
27. 4. 1　袋井特別支援学校の一部を分離して、静岡県立掛川特別支援学校開校
御前崎分校を掛川特別支援学校に移管、東遠分教室閉鎖
令和　2.11. 1　30周年記念誌発行

(2) 組織図





各種委員会

- 学校自己評価委員会
- 学校運営協議会（関係者評価委員会）
- 職員安全衛生委員会
- 学校保健委員会
- 校内コンプライアンス委員会
- 施設開放委員会
- 業者選定委員会
- 危機管理委員会
- 防災対策委員会
- 校内就学支援委員会
- 交通安全委員会
- 人権教育推進委員会
- いじめ防止対策委員会
- 共生共育推進委員会
- 教育課程検討委員会
- 研修推進委員会
- 校内医療的ケア検討委員会
- 学校給食衛生管理委員会
- アレルギー等検討委員会
- 感染症対策委員会
- スクールバス安全委員会
- 入学者選考委員会
- 光る子まつり実行委員会

2　目指す学校像

(1) 教育目標

自ら光る子を育てる ～自分のよさを磨いて豊かに生きる～

(2) 目指す学校像

【小学部】　自分から進んで活動する子

【中学部】　「任せて」と自信を持って活動する子

【高等部】　自らを磨き「自己実現」を図る子

【肢体教育】　自分らしく「人」「もの」「社会」に関わり豊かに生きる子

【訪問教育】　自分らしく豊かな生活を送る子

3　監査対象期間の年度別学校経営の取組等

(1) 令和６年度の取組目標への評価及び成果と課題

ア　命を守り、人権を尊重した安全・安心な学校　【安全・安心】

イ　児童生徒が主体的に学び、一人一人のよさを引き出す学校　【子ども主体の授業】

ウ　家庭や地域、関係機関と協働し、児童生徒の自立と社会参加を目指す学校　【連携】

・教育活動を支える基本的な考え方

○自らの強みを発揮し、仲間と協働しながら、主体的に学校経営に参画する教職員

＊業務改善；教育活動や業務の目的を再確認し、精選、効率化を図る

令和６年度年度の評価（重点目標はゴシック体で記載）

A（85%以上）B(70～84%) C(50～69%) D（49%以下）

	取組目標	成果目標	達成状況(教職員評価ABの%を記載)	評価	成果と課題
安心・安全	**未然防止の行動力と有事への対応力の向上**	・ヒヤリハットを自分事と捉え、指導に生かした教員100%	99%	A	・ヒヤリハット事案の報告を校内掲示板や朝の打ち合わせ等で情報共有することで、教職員が事案を自分事として捉え、児童生徒の学習内容や学習環境を見直す機会となった。
		・有事の際の自分の役割や行動を具体的想定できる職員100%	97%	A	・地震や火災、悪天候、スクールバスの下校便での地震等を想定した避難訓練を実施し、様々な場面で、自分の役割を確認したり、対応したりすることができた。
		・校内事故０を目指し、具体的な予防策に取り組んだ教員100%	98%	A	・重大事故件数０件。毎月の安全点検と合わせて、小型マグネットの回収や窓ストッパーのチェックの呼び掛け等、必要に応じて点検する観点を具体的にすることができた。
		・平時、緊急時の自分の役割を理解し、協働して安全な医療的ケアを実施できたとする医ケア担当職員100%	100%	A	・停電時を想定して、校内の発電機や蓄電池を使って医療機器の電源確保の研修を行った。災害時に使用する使用可能時間の目安や蓄電池、発電機からどのように電源を取るかを確認することができた。
		・各学部、各分掌と連携し、柔軟で効果的な予算執行ができたとする事務職員100%	80%	B	・各学部や各分掌と事務室が連携し、予算執行を的確に行うことができた。今後も教職員と事務職員が協力して、よりスムーズに予算をより迅速に、そして効果

					的に活用できるように取り組んでいく。
	自他を尊重し合う意識の醸成	・自他の人権意識を大切にする態度や児童生徒の自己肯定感を高める指導ができたとする教員 100%	99%	A	・人権研修や学年間でのミニ研修会では、自分自身の日々の言動を振り返ることで、一人一人が児童生徒への関わり方を考える機会となり人権意識の向上につながった。また、児童生徒の良いあらわれを、ひまわりのイラストに黄色いシールで示していくことで、教員が児童生徒を称賛すると共に、自分や友達を認める機会となり、自己肯定感を高めることにつながった。
子ども主体の授業	深い学びを実現するための授業実践	・学習評価と授業評価をもとに授業改善に取り組んだ教員 100%	95%	A	・児童生徒の学習のつぶやきやあらわれの記録を基に、教員間で話し合い、さらに良いあらわれにつながるように、教員の関わり方や環境等、授業改善を行うことができた。来年度も子どもたちの良い成長が見られるように、教員間で話し合いを重ねながら授業作りを行っていく。
		・自立活動「流れ図」の考え方を理解した教員 100%	86%	A	・「流れ図」の言葉に難しさを感じたり、「考え方を理解」の捉え方の共通理解が不十分だったりした。今後は、児童生徒の目標を検討する時期に合わせて研修を実施し、活用する機会を増やしていく。
		・授業において、ICT 機器の活用を試みた教員 100%	88%	A	・実践例の紹介の機会が少なかった。今後は、実演しながらの ICT 機器の使い方や活用例の紹介をとおして、教員が ICT 機器を有効に使用できるようにしていく。
	12 年間を積み上げる授業実践	・キャリア発達を意識して指導することができた教員 100%	82%	B	・キャリア教育の研修では、教室に児童生徒の次に目指す発達段階の姿を具体的に知らせることができた。今後は、年度始めに研修を行うことで、職員への周知を早くし、キャリア発達への意識を高めていく。
		・12 年間の全体計画（進路学習、性の指導、道徳、防災教育、食育）に基づく年間指導計画による授業の実践	86%	A	・全体計画と年間指導計画を基に学習内容の確認や振り返りを行うことで、学習が進路や性の指導、道徳等とつながりがあることに気付くことができた。引き続き、全体計画を見る機会を増やしていき、授業とのつながりを気付きやすくしていく。
		・関係分掌等による全体計画の再検討、改善	78%	B	・次年度に向けて、全体計画の見直しと新たに指導内容表を関係分掌で作成した。指導内容表は、新たに作成したため、載せる内容の厳選が難しかった。今後、毎学期、改善点を検討し、令和８年度のより良い全体計画と指導内容表を作成していく。

	互いに高め合える教職員集団の構築	・指導について気軽に相談し合えることができた教員100%	98%	A	・教員同士でペアを作ることで、気軽に話し合えるきっかけとなった。また、同じ学年間のペアでは、授業作りをとおして話し合うことができた。
		・自ら専門性の向上に努めることができた教員100%	99%	A	・スタートアップ研修（初任者、希望者対象研修）での、特別支援教育の基礎に関する研修や、夏季研修での図画工作（美術）の実技研修、教材を用いた国語算数（数学）研修、学校掲示板での実践例の紹介等をとおして、教員の専門性の向上につなげることができた。
連携	**保護者、関係機関、地域との連携・協働体制の充実**	・交流及び共同学習等に参加した児童生徒100%(小４以上)	100%	A	・学校間交流では、学習したことをお互いの学校に行き来して発表したり、交流校の音楽発表を聴いたりした。また、交流校の袋井商業高校や袋井高校へ行き、作業製品の展示をするなどの交流をすることができた。
		・地域資源を活用した授業等を年１回以上実践した学年等100%	91%	A	・学校運営協議会を活用し、自治会長や公民館との交流や、学校所在地にある地域資源を生かした校外学習や清掃活動等をとおしての地域住民との交流を活発に行うことができた。
		・学年等による月に１回以上のホームページでの教育活動等の発信	50%	C	・各学年の生活学習や学校間交流の様子、運動会や持久走等の各学部の様子、学校行事の光る子まつりの様子等を発信することができたが、掲載の呼び掛けが不十分だったため、月に１回以上には至らなかった。今後は、新ホームページの作成や更新の手順の周知をしていくと共に、児童生徒の学習の「タイムリーな発信」を意識し計画的に取り組んでいく。
		・計画的な作品展への出展	100%	A	・計画通りに地域へ児童生徒の作品を出展することができた。また、ホームページや学校の掲示板に作品展の様子を掲載することで、より多くの保護者や教員に作品展の様子を紹介することがきた。
		・保護者及び必要な関連機関との連携を図った教員100%	96%	A	・児童生徒や保護者の必要に応じて、福祉課や相談事業所等と連携を図り、支援方法の情報共有や共通理解、進路等についての支援会議を行うことができた。
		・実態や年齢に応じた支援等に関する保護者への情報提供に取り組んだ教員100%	94%	A	・保健だよりや支援連携だより、進路だよりをCOCCOで配信したり、校内進路コーナーを定期的に更新したりしながら保護者へ情報を提供することができた。
		・特別支援教育について、ニーズに応じた助言や説明をすることができた担当教員100%	75%	B	・袋井市連携事業コンサルタント制度として今年度は14件の定期訪問、７校20件の要請訪問を実施し、ニーズの応じた助言、説明を行った。様々な経験年数の教員が担当するため、担当者間で十分情報共有する機会を設定していきたい。

(2) 令和７年度の取組目標・達成方法・成果目標

ア　命を守り、人権を尊重した安全・安心な学校　【安全・安心】

イ　児童生徒が主体的に学び、一人一人のよさを引き出す学校　【子ども主体の授業】

ウ　家庭や地域、関係機関と協働し、児童生徒の自立と社会参加を目指す学校　【連携】

〇教育活動を支える基本的な考え方

『声を出し、つながる教職員』

・一人一人が自らの強みを発揮し、仲間と協働しながら、主体的に学校経営に参画する

「業務改善」

・教育活動や業務の目的を再確認し、精選、効率化を図る

（学校、学学部・学年・分掌での業務の見直し（効率化と精選）を３例以上）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
安全・安心	未然防止の行動力と有事への対応力の向上	・各マニュアルの活用、ヒヤリハットの情報共有 ・実際のニーズに即した訓練、研修の実施 ・健康及び安全に配慮した学習環境の設定	・校内事故０を目指し、具体的な予防策に取り組むことができた。 ・有事の際の自分の役割や行動を具体的に想定できた。	危機管理課 生徒指導課 保健給食課 総務課 各学部
		・安全な医療的ケアの実施における教員、看護師及び医療機関等との効果的な連携	・平時、緊急時の自分の役割を理解し、協働して安全な医療的ケアを実施できた（担当教職員）	保健給食課
		・事務部と各学部、各分掌の密な連携	・各学部、各分掌と連携し、柔軟で効果的な予算執行ができた（事務職員）	事務部
	自他を尊重し合う意識の醸成	・人権に配慮した適切な児童生徒への接し方について確認し合う機会の設定 ・児童生徒が互いの良さを認め合う場の設定	・自他の人権意識を大切にする態度を高めることができた。 ・児童生徒の自己肯定感を高める指導ができた。	生徒指導課 各学部
子ども主体の授業	主体的・対話的で深い学びを実現するための授業実践	・校内(班別)研修の推進による授業力の向上 ・児童生徒の実態や指導の系統性等の根拠に基づいた授業、支援の実践	・児童生徒が授業に主体的に取り組み学びを実感する授業を実践できた。 ・個別の教育支援計画及び個別の指導計画を授業の実践に生かすことができた。 ・研修会等での学びを自らの指導に役立てることができた。	研修課 自立活動課 教務課 体育課 各学部
		・ICT 機器（タブレット端末、入力補助具等）の積極的活用	・児童生徒の支援・指導に ICT 機器を効果的に活用することができた。	図書情報課 自立活動課

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
	12 年間を積み上げる授業実践	・児童生徒のキャリア発達に基づく指導の実践	・児童生徒に自らの成長と目標を意識させる指導ができた。 ・全体計画や指導内容表（進路、保健、道徳、安全、食育等）を授業作りに生かし発達段階に応じた指導をすることができた。	学習支援課 進路指導課 生徒指導課 危機管理課 体育課 保健給食課 各学部
	互いに高め合える教職員集団の構築	・キャリアステージ研修の推進（スタートアップ研修、袋特版ＯＪＴの推進等）	・指導について気軽に相談し合えることができた。 ・自ら専門性の向上に努めることができた。	学習支援課
連携	保護者、関係機関、地域との連携・協働体制の充実	・地域資源を生かした教育活動の実践（学校間交流、地域交流等） ・本校の教育活動の発信（ホームページ、作品展等）	・地域での活動を児童生徒が自信を深める場として活用できた。 ・児童生徒の良さを地域に伝えることができた。	支援連携課 学習支援課 図書情報課 各学部
		・保護者や関係機関と連携した支援体制の充実	・保護者及び必要な関連機関と連携し、支援の充実を図ることができた。	支援連携課 進路指導課 各学部
		・袋井市連携を足掛かりにした特別支援教育のセンター的機能の充実	・特別支援教育について、ニーズに応じた助言や説明をすることができた（担当教員）。	支援連携課

4　監査対象期間における特色ある取組

年　度	取　組　概　要	成果及び課題
令和６年度	(1) 未然防止の行動力と有事への対応力の向上	令和５年度は、各種訓練後の反省点を次の訓練につなげていくことができたため、より実践的な訓練の計画を立案して行った。また、台風接近時、南海トラフ地震臨時情報における対応について見直し、教職員、保護者に周知した。土砂災害における危険個所を確認し、避難場所の見直しもおこなった。 ヒヤリハット事案に関しては、共有し同一事案の再発防止に努めている。共有の重要性を教職員に再確認し、効果的な活用につながるように様式の見直しを行った。 人工呼吸器に関しては、緊急時対応のフローチャートを作成し、緊急時対応訓練を通じて見直し、共有できるよう作成した。
	(2) 12 年間を積み上げる授業実践	令和５年度に行った性の指導、進路学習、道徳教育、防災教育の全体計画の書式を統一した。性の指導は保健教育、防災教育は安全教育として全体計画を策定した。また、食の指導に関する全体計画、キャリア段階表も策定し、来年度以降の年間計画に生かし、学習を積み上げる授業実践ができるよう整えた。
	(3) 保護者、関係機関、地域との連	交流及び共同学習等は、学年の実情に合わせな

	携・協働体制の充実	がら、積極的参加を引き続き行えるよう計画した。また、地域資源を活用した授業等については、活用先を増やすと共に、校内の情報共有をした。 令和３年度から行っている袋井市連携事業では、定期訪問を廃止し、要請訪問中心に行うようにと整えた。研修や普段着交流等は計画的に行い、特別支援学校の理解啓発及び市内の特別支援教育の充実を図った。
令和７年度	(1) 未然防止の行動力と有事への対応力の向上	令和６年度の訓練の反省を踏まえて各種訓練での事前事後のマニュアル確認と振り返りを行う。また、全校一斉引き渡し方法、引き渡し事前調査、非常時の薬管理方法の見直しを行っていく。 ヒヤリハット事案に関しては、学部・学年での即時共有と指導体制や学習環境などの見直しを掲示板行い、自分事として考え、同様事例の再発防止を図っていく。 人工呼吸器に関しては、複数で確認するとともに、緊急対応訓練をして体制の見直しを行う。
	(2) 互いに高め合える教職員集団の構築	引き続き、年度当初に特別支援学校に初めて勤務する教職員と希望者を対象にスタートアップ研修を行う。研修講師を充実発展期前後の教職員が務めることで自らの専門性向上にも役立てるようにする。0JT 研修では、基礎向上期の教員と、充実発展期、進化熟練期の教員がペアを組んで話す機会をもうけることで、それぞれのキャリアステージの役割が果たせるようにする。
	(3) 保護者、関係機関、地域との連携・協働体制の充実	交流及び共同学習等は、小学部は全学年で、中学部高等部は学部として交流ができるようにする。また、交流の意図を相手校とも確認し、目的が達成できる内容となるように計画していく。 令和３年度から行っている袋井市連携事業では、要請訪問をはじめ、研修や普段着交流等を行い、特別支援学校の理解啓発及び市内の特別支援教育の充実を図る。また、パンフレットを作成し、センター的機能の活用法を地域の学校に周知できるようにする。

5　教職員について

(1) 令和６年度異動状況

	本務職員										小計	臨時・会計年度職員								小計	合計
	校長	副校長	教頭	事務長	教諭	養護教諭	主査	主任	技能長（主任技能員）	栄養教諭		教諭（任）	教諭（臨）	養護教諭（任）	栄養士（臨）	非常勤講師	医療的ケア看護職員	非常勤嘱託員	非常勤労務職員		
転出					24	1					25									0	25
退職				1	8						9	2	6	1		3		1		13	22
転入				1	21	1					23	2								2	25
新任					13						13	3	6			0				9	22
役職定年											0									0	0
差引増減	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	3	0	△ 1	0	△ 3	0	△ 1	0	△ 2	0

(2) 現員数

本務職員										小計	臨時・会計年度職員								小計	合計
校長	副校長	教頭	事務長	教諭	養護教諭	主査	主任	技能長	栄養教諭		教諭（任）	教諭（臨）	栄養士（臨）	非常勤講師	医療的ケア看護職員	就労促進専門員	非常勤嘱託員	非常勤労務職員		
1	1	1	1	136	2	2	1	1	1	147	10	14	1	3	5	1	3	8	45	192

(3) 健康管理について

【令和 6 年度】

ア　健康管理の推進

(ｱ) 生活習慣病健診、指定年齢健診、人間ドック等の完全実施を図り、再検査等の事後措置を徹底させた。また、情報機器作業従事者健康診断については、全員に作業区分調査を行い一次健診対象者を抽出し、紙面による調査を実施した。

(ｲ) 職員安全衛生委員会を毎月開催し、教職員の心身の健康状況について共通理解を図りながら、委員会として必要な対策について協議した。

(ｳ) 感染症予防のため、換気、手洗いの励行や健康観察を呼び掛けた。

イ　腰痛予防対策について

(ｱ) 積極的に腰痛予防に努めるよう、全職員に呼びかけた。

(ｲ) 木曜日の始業時２分間の腰痛予防体操を全職員で継続実施し、腰痛予防に努めた。

ウ　ストレス、メンタルヘルス関連について

(ｱ) 新任教職員が抱えている悩みを知るため、年度初めにアンケート調査を行い、職員安全衛生委員会で問題解決の方法を話し合った。

(ｲ) 毎週水曜日を定時退勤日と定め、17 時 30 分施錠、通常の日は 20 時施錠を実践した。

(ｳ) 働き方改革を念頭に置きながら、教職員の業務や年間指導計画等の見直しを行い、時間外勤務の削減を図ることができるように取り組んだ。

(ｴ) 公立学校共済組合の職場の健康づくり支援事業を活用して「職員室でゼロトレ」を学び、職員の健康づくりにつなげた。

【令和７年度】

ア　健康管理の推進

(ｱ) 生活習慣病健診、指定年齢健診、人間ドック等の完全実施を図り、再検査等の事後措置を徹底させている。また、情報機器作業従事者健康診断については、全員に作業区分調査を行い一次健診対象者を抽出し、紙面による調査を実施した。

(ｲ) 職員安全衛生委員会を毎月開催し、教職員の心身の健康状況について共通理解を図りながら、委員会として必要な対策について協議している。

(ｳ) 感染症予防のため、換気、手洗いの励行、健康観察などを呼び掛ける。

イ　腰痛予防対策について

(ｱ) 積極的に腰痛予防に努めるよう、全職員に呼びかける。

(ｲ) 木曜日の始業時２分間の腰痛予防体操を全職員で継続実施し、腰痛予防に努める。

ウ　ストレス、メンタルヘルス関連について

(ｱ) 新任教職員が抱えている悩みを知るため、年度初めにアンケート調査を行い、職員安全衛生委員会で問題解決の方法を話し合った。

(ｲ) 毎週水曜日を定時退勤日と定め、17 時 30 分完全施錠、通常の日は 20 時施錠を実践している。

(ｳ) 働き方改革を念頭に置きながら、教職員の業務や年間指導計画等の見直しを行い、時間外勤務の削減を図ることができるように取り組んでいる。

(ｴ) 公立学校共済組合の職場の健康づくり支援事業を活用し、「職員室でゼロトレ」を学び、教職員の健康状態の維持、改善につなげる。

(4) 教職員の研修について

ア　校内研修

【令和６年度】

目　的　・　研　修　内　容	成　　果
学校目標である「自ら光る子を育てる～自分のよさを磨いて豊かに生きる～」に向かう児童生徒を育てるため、研修テーマを「思考の流れに沿う学習過程を大切にした授業づくり」とした。 研修方法として、全体研修を年２回行い、研修テーマの意図や成果を共通理解した。また、１班（肢体教育Ａ課程・訪問教育）、２班（小学部知的・肢体Ｂ課程）、３班（中学部知的・肢体）、４班（高等部知的・肢体Ｂ課程）に分かれ、学校目標に向かうため、年 10 回の班別研修を通して実践を積み重ねていった。 研修の１年目（令和４年度）、２年目（令和５年度）に行った内容を積み重ね、令和６年度は、①児童生徒の実態把握を的確に行い、具体的な目標を立て、教師同士でそのあらわれや想定される気持ちを共有する。②児童生徒の思考（何を、どのように学んでいるのか）を教師同士の対話を通して解釈し評価したり、その言動を引き出した教師の手立てを細かく分析したりする。その過程で、児童	児童生徒の的確な実態把握に沿った目標設定と、想定される気持ちを教員間で共有するため、また、児童生徒の思考や手だてを細かく分析するため、各研修班でシートや表を使用、事例児を挙げ、研修を進めていった。 １班は、実態アセスメントカードを作成し、実態に応じた単元目標を設定したことで、グループで目標を考える材料にできた。また、評価表を活用し、単元を通した学習評価を行い、有効だった手立てを挙げ次時の授業に生かすことができた。改善を繰り返す中で、授業や単元を振り返る際の視点がはっきりしてきた。 ２班は、単元カードを活用し、３観点のより具体的な姿で評価し、教員間で共有することができた。また、事例シートを活用することで、複数の教員で解釈して児童の実態に合わせた支援を用意することができ、事例児だけでなく、他の児童についても改善するための手立てを考えることができた。

目　的　・　研　修　内　容	成　　果
生徒の思考の流れを知っていきたいと考えた。 教師が児童生徒の思考の流れに沿った学習過程を大切にした授業づくりに取り組むことで、各学部の目指す児童生徒像に近づき、学校教育目標につながると考え、研修をおこなった。	３班は、生徒理解用ツールを利用することで適切な実態把握の内容を基に目標を設定することができた。また、授業分析用ツールを用いることで、なぜ良いあらわれが見られたのかが分かり、次の授業や単元に生かしたいことが明確になり、共通理解もしやすくなった。 ４班は、事例カードと単元カードを使って、実態や長期目標、年間目標を基に単元目標を設定した。生徒のあらわれや教師の気持ちの解釈、有効だった教師の支援の評価を記入したことで、教員間で話し合いながら課題の共有や授業改善ができた。
課題 自立活動6区分や目指す資質・能力の三つの柱をもとに、的確に実態把握し目標を立てることができた。また、各研修班でツールを利用することで、単元や授業を通したあらわれや教師の支援を多角的な視点で分析することができた。一方で、設定された研修以外は各ツールに記入することで完結してしまうことが多く、授業設計診断４項目や授業づくり４つの視点を活用することが難しかったという課題が挙がった。今まで以上に児児童生徒が更に主体的に授業に参加し、夢中になって取り組むための支援方法を今後も検討していく必要がある。また、学んだことを教師と児童生徒が共有し、確実な学びにつなげられるようにしたい。	

【令和７年度】

目　的　・　研　修　内　容	成　　果
学校目標である「自ら光る子を育てる～自分のよさを磨いて豊かに生きる～」に向かう児童生徒を育てるため、「児童生徒が主体的に取り組み、学びを実感する姿を引き出す授業づくり　～活動を支えるできる状況づくり～　」をテーマとして研修に取り組む。 研修方法として、全体研修を年２回行い、研修テーマの意図や成果を共通理解する。また、１班（肢体教育Ａ課程・訪問教育）、２班（小学部知的・肢体Ｂ課程）、３班（中学部知的・肢体）、４班（高等部知的・肢体Ｂ課程）に分かれ、年 10 回の班別研修を通して実践を積み重ねていく。 授業づくり４つの視点を活用して①児童生徒の目標に対して具体的な姿で評価基準を設定し、②手立てや支援を工夫し、③目標の姿で評価し授業改善していく。そうすることで、児童生徒が目の前の活動にせいいっぱい取り組み、満足感と達成感に満たされた学校生活を送り、本校学校教育目標「自ら光る子」に近づくことができると考える。	自立活動6区分や育成を目指す資質能力三つの柱を参考に児童生徒の姿を捉え、目標と評価基準を明確化する。次に、授業づくり4つの視点から、児童生徒が主体的に活動に取り組み、学びを実感するためのできる状況づくりを考える。そして、各班でツールを利用し、学習状況や次単元とのつながりに注目しながら、単元や授業の中で評価し、授業改善を行う。 1班は、「表情豊かに関わる個別学習～実態に合った授業づくり～」を研修課題とし、自立活動（個別学習）を窓口として行う。実態アセスメントカードを利用したり動画で児童生徒のあらわれを確認したりする。 2班は、「夢中になって取り組む生活単元学習～できるための手立て～」を研修課題とし、生活単元学習を窓口に行う。単元シートや単元カード、事例児シートをもとに、共有して授業改善を行う。 ３班は、「生徒がせいいっぱい取り組む作業学習～活動を支えるできる状況づくり～」を研修課題とし、作業学習を窓口に行う。ツールに記入し、生徒の実態やあら

目　的　・　研　修　内　容	成　　果
	われを共有する。 　４班は、「生徒がやりがいを見出す作業学習～活動を支えるできる授業づくりから～」を研修課題とし、作業学習を窓口に行う。個別の教育支援計画の目標を担任と作業担当で確認し、ツールを活用してあらわれや有効手立てを検討する。

6　防災対策について

危機管理体制の大幅な見直しを進めるとともに、防犯意識の向上に努めた。

年度別防災訓練実施（計画）状況

年　　度	月　　日	内　　容
令和６年度	４月　２日	危機管理マニュアル研修
	４月　８日	第１回職員初動確認
	４月 24 日	第１回避難訓練（地震）
	５月　２日	引き渡し訓練
	５月 22 日	第２回避難訓練（火災）
	６月　４日	児童生徒捜索訓練（不審者対応）
	６月 18 日	土砂災害図上訓練
	７月　２日	消火及び搬送訓練（初任者、新任者、希望者）
	８月　７日	職員防災研修
	９月　３日	第３回避難訓練（地震）
	11 月 22 日	人工呼吸器緊急対応訓練
	12 月　２日	非常食給食
	12 月　３日	スクールバス避難訓練
	１月 15 日	災害伝言版 171 訓練
	１月 17 日	第４回避難訓練（非通知・地震）
	３月下旬	学校連絡・情報共有サービスの登録依頼
令和７年度	４月　２日	危機管理マニュアル研修
	４月 13 日	医療的ケア緊急時対応訓練
	４月中	発災時初動確認（各学年・学級で実施）
	５月　２日	第１回避難訓練（総合訓練）
	５月　９日	引き渡し訓練
	６月　４日	第２回避難訓練（地震）
	６月 13 日	人工呼吸器緊急時対応訓練
	６月 20 日	土砂災害対応研修
	６月 24 日	児童生徒捜索訓練
	８月　６日	職員防災研修（不審者対応）
	９月　１日	web171 訓練
	12 月　８日	第３回避難訓練（総合訓練）
	11 ～２月	緊急地震速報訓練（シェイクアウト訓練）
	12 月　３日	非常食体験
	12 月　９日	スクールバス避難訓練
	３月下旬	学校連絡・情報共有サービスの登録依頼

7　学校開放について

　地域に開かれた学校づくりの一環として、教育活動に支障のない範囲で学校の施設・設備を地域に開放した。

年度別学校施設開放状況　　（令和７年８月31日現在）

年度	№	利　用　者　名	利用施設	利用日数	利用者数	利用者負担金(電気料)円)
R6	1	袋井ＯＢサッカークラブ	グラウンド(雨天)体育館	12	331	0
	2	わかふじチャレンジ	体育館	19	234	0
	3	Ｆ.バッドボーイズ	体育館	2	10	0
	4	福祉者スポーツセンター	グラウンド・体育館	9	153	3,310
	計			42	728	3,310
R7	1	袋井ＯＢサッカークラブ	グラウンド(雨天)体育館	5	139	0
	2	わかふじチャレンジ	体育館	12	148	0
	3	Ｆ.バッドボーイズ	体育館	1	8	0
	4	福祉者スポーツセンター	グラウンド・体育館	4	63	875
	計			22	358	875

□□□□□□

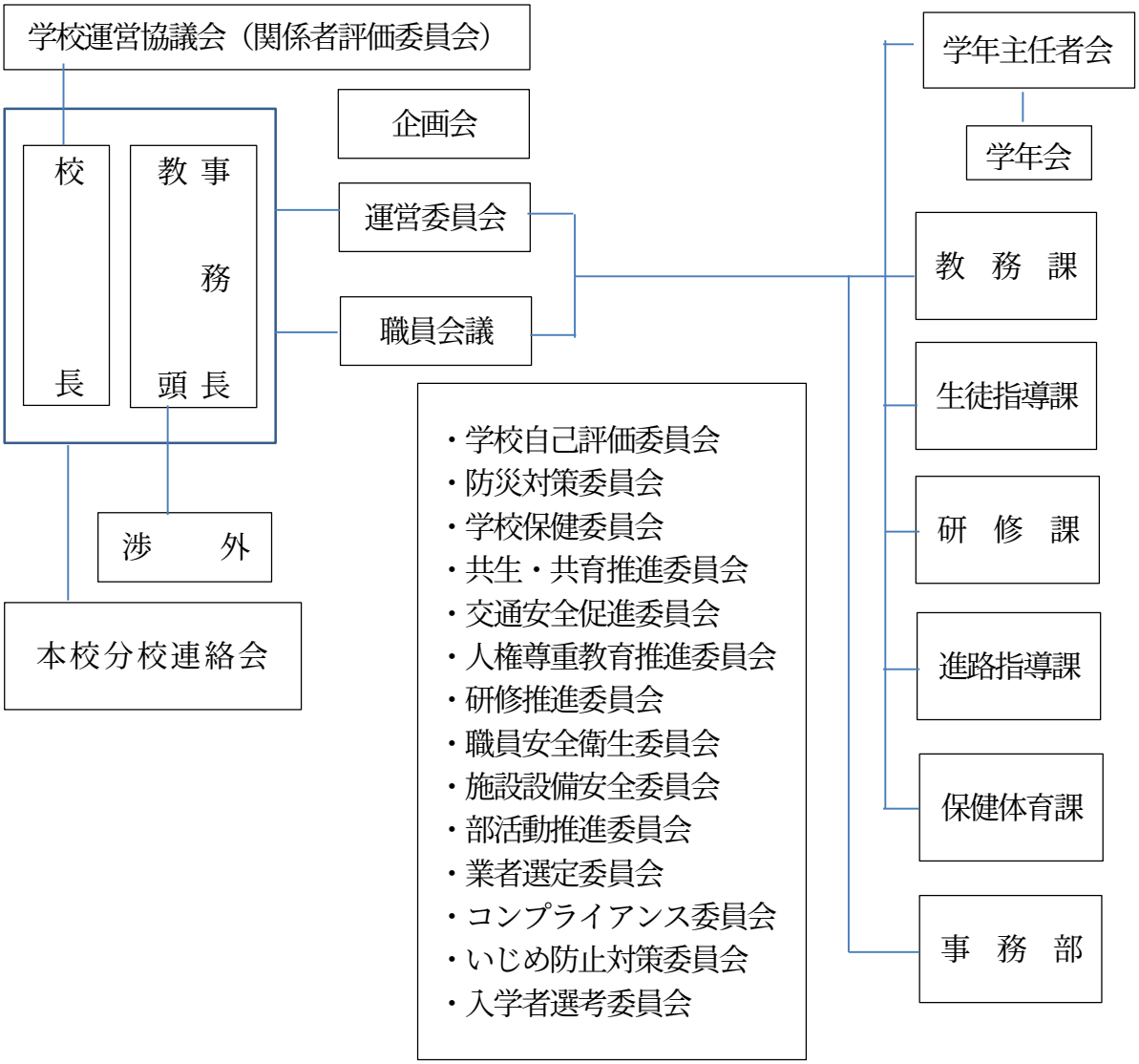
事務事業の概要(磐田見付分校)

1　概　況

(1) 学校の沿革

平成 21．4．1　袋井特別支援学校磐田見付分校設置準備委員長他７人発令
21．4．6　袋井特別支援学校分校設置連絡協議会発足
22．3．8　静岡県立磐田北高等学校旧幼稚園舎改築工事竣工
22．4．1　静岡県立磐田北高等学校内に静岡県立袋井特別支援学校磐田見付分校開校
22．4．8　開校式、第１回入学式挙行

(2) 組織図



2　目指す学校像

(1) 教育目標

自ら光る子を育てる ～自分のよさを磨いて豊かに生きる～

(2) 目指す学校像

ア　安心して生活、学習できる学校

イ　自分の力を精いっぱい発揮できる学校

ウ　保護者、地域と共に歩む学校

(3) 目指す生徒像

ア　自分のよさを理解し、目的をもって主体的に学び・活動する生徒

イ　あいさつや望ましいコミュニケーションができる生徒

ウ　仲間と協力できる生徒

エ　最後までやり抜く気持ちと体力を身につけた生徒

3　監査対象期間の年度別学校経営の取組等

(1) 令和６年度の取組目標への評価及び成果と課題

ア　学びを支える環境をつくる。　（環境）

イ　学びを積み上げる授業をつくる。　（生徒主体の授業）

ウ　学びを共に育てる連携をつくる。　（連携）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
安全・安心な環境	未然防止の行動力と有事への対応力をつける。	・校内事故０を目指し具体的な予防策に取り組んだ職員100%	・十分達成31%、おおむね達成62%、あまり思わない６%、全く思わない０%	B	事故ゼロに向けた対策を職員間で共通理解することができたが、保健体育のときに怪我をした生徒がいた。準備体操をしっかりと行うことや注意喚起をしていきたい。
		・マニュアルを基本に、状況に合わせた対応ができたと答える職員100%	・十分達成25%、おおむね達成63%、あまり思わない６%、全く思わない６%	B	マニュアルの確認と実地訓練を合わせて行ったことで、状況に応じた判断ができたが、マニュアルが多すぎて内容を把握しきれなかったという職員もいた。マニュアルの改善や伝達方法の工夫をしていくようにする。
		・有事の際の自分の役割や行動を、具体的に想定することができる職員100%	・十分達成56%、おおむね達成44%	A	有事に備え、居住地を記載した地図を見て危険箇所を確認する研修を行った。 防災訓練後すぐに係の職員で集合し、情報交換をするこ

					とで不明箇所の改善を図ることができた。
	より良い生活を送るための健康と体力を育む。	・授業内容を学年等で共有し、実生活や将来の生活に必要なことを個々の生徒に働き掛けた職員100%	・できた50%、ほぼできた職員44%、あまり思わない６％	B	近い将来を想定して指導ができたが、学部全体では情報共有の難しさを感じた。 学年内では、保健の授業で指導した内容を日々の生活の中でも働き掛けるようにすることで、生徒が意識できた場面もあった。
働く環境	効果的な業務の遂行をし、万全な体制を創る。	・資料事前提示、資料を事前に一読、会議終了時刻の明示をした職員100%	・できた職員25%、ほぼできた職員50%、あまり思わない25%	B	早めの提案や資料の事前配付はできたが、会議が長引いたり、資料の読み込みができなかったりすることがあった。今後は会議の始めに終了時刻を伝えておくなど、工夫をしていく。
教員の専門性の向上	教科学習の充実を図る。	・生徒の実態に合わせた判断基準を基に授業を行った職員100%	・できた職員73%、ほぼできた職員27%、	A	教科ごとに評価基準を設定し、学年内で個々の生徒の到達目標をあらかじめ設定して、授業に臨むようにした。教員としての評価はAであるが、今後も生徒の実態に本当に合った内容であるかを常に考え、保護者への丁寧な説明も継続して行う。
		・学習評価と授業評価をもとに授業改善に取り組んだ職員100%	・できた職員20%、ほぼできた職員73%、あまり思わない７％	B	評価をもとに授業改善を行うことができた。 年間計画を作成して実施する内容ではあるが、今後はさらに生徒の思考を大切にして単元や授業間のつながりを考えることで、生徒主体の授業展開を工夫していく。
	職業の授業の充実を図る。	・キャリア教育の視点を取り入れて授業を行った職員100%	・できた職員20%、ほぼできた職員73%、あまり思わない７％	B	職員は、キャリア発達の視点をもち、生徒はキャリアパスポートを活用することで、目指す自分の姿を客観的に捉え、実習先等の目標を考えることができた。

					今後は職業と他教科との関連に配慮しながら、年間計画の見直しを行い、より生徒が実習等でも活用できる授業内容を実施する。
豊かな人間性	人権教育の充実を図る。	・自他の人権意識を大切にする態度や生徒の自己有用感を高める指導ができた職員100%	・できた職員31%、ほぼ行うことができた職員63%、あまり思わない６％	B	人権チェックシートで教員は客観的に自分の姿を見つめることができた。また、学年会等で意見交換をすることで、適切に関わる姿の共通理解を図ることができた。 生徒をあだ名で呼んでいる教員がいたため、朝の打ち合わせで生徒への適切な関わり方について再度確認と啓発をした。
磐田北高	生徒の自立する力を伸ばす。	・磐田北高との活動で、磐田見付分校の生徒が一緒に楽しみ自信をもって活動できるように支援した職員100%	・できた職員44%、ほぼできた職員44%、あまり思わない12%	B	全員の生徒が楽しみに参加できている訳ではないが、昨年参加が難しかった生徒も今年は参加できるなど、改善が見られた。 両校の教員間で夏と冬に合同研修の機会をもち、困難さを抱える生徒の指導について情報交換を行った。また分校教員が北高教員の授業参観をする機会もあったことで、学校間の理解が向上してきた。
地域	地域とのつながりを強める。 ・本校及び本校の教育課程について周知する。	・生徒が自分の言葉で伝えられるように支援した職員100%	・できた職員31%、ほぼできた職員69%	A	年間２回、外部での作業製品販売会を実施したことで、生徒が地域の方に自分の言葉で製品の説明をするなどの活動を設定することができた。 言葉が上手く出てこない生徒もいたため、より生徒が主体的に発信できる工夫を考えていく。

関係機関	関係機関との連携の強化を図る。	・卒業後のことも含め、必要な関係機関と連携を図った職員100%	・できた職員44%、ほぼできた職員38%、あまり思わない18%	B	市の担当者やスクールカウンセラーの活用により、出席の滞る生徒の生活面や進路等に関する支援会議をもち、方向性について協議した。 学部全体としては、３年間のどの段階でどのような機関と連携を図ればよいか、今後さらに活用が図れるように共通理解していきたい。
家庭	家庭との連携を図るため、情報共有する。	・連絡ノートを通じて、生徒の授業での様子を月２回以上伝えることができた職員100%	・できた職員22%、ほぼできた職員39%、あまり思わない39%	C	連絡ノートで伝える内容について学年により認識に差があり、評価が低かったが、学年便りや電話連絡、ホームページの活用もして生徒の様子を伝えた。 今後は、連絡ノートを中心としながら、各種方法により授業での様子を定期的に伝えるように努めていく。
		・進路便り、面談等を通じて、現場実習前後に、進路に関する情報を伝えることができた職員100%	・できた職員33%、ほぼできた職員60%、全く思わない７%	B	進路便りの発行が少なかったが、PTA進路研修会を定期的に開いたり、面談等を使って進路に関する情報を伝えたりすることができた。 今後は、進路便りを定期的に発行するとともに、継続して面談や実習前後での保護者への連絡、PTA進路研修などを行い、進路に関する情報を伝達していく。

(2) 令和７年度の取組目標・達成方法・成果目標

ア　学びを支える環境　　（安心・安全、働く環境）

イ　学びを積み上げる授業　　（教員の専門性向上、豊かな人間性）

ウ　学びを共に育てる連携　　（磐田北高、地域、関係機関、家庭）

		取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
学びを支える環境	安全・安心	未然防止の行動力と有事への対応力をつける。	・健康及び安全に配慮した学習環境を設定する。	・校内事故０を目指し具体的な予防策に取り組むことができた教員100%	保健体育課 生徒指導課 学部 各作業班
			・マニュアルの確認・見直しを行う。 ・防災教育と結び付いた防災訓練を実施する。 ・具体的事例を想定した緊急時対応訓練を実施する。（年２回） ・交通事故防止のための指導を行う。	・マニュアルを基本に、状況に合わせた対応や有事の際の自分の役割、行動を具体的に想定することができた職員、生徒100% ・身を守る方法を知ることができたと答える生徒80% ・交通安全のために自分が気を付けることを理解した生徒80%	生徒指導課 保健体育課
		より良い生活を送るための健康と体力を育む。	・保健体育の年間指導計画に基づき、養護教諭と連携し実生活や将来の生活に結び付け授業を行う。	・健康と体力の維持向上に必要なことを、個々の生徒に働き掛けることができた教員100%	保健体育課 学部
			・健康な体づくりのための食に関する指導を行う。	・バランスの良い食事や生活習慣について、保健の授業やチャレンジザ弁当等で伝えた教員100%	
	働く環境	組織として、効率的に業務を遂行する。	・学年、学部、分掌の会議の効率化を図る。	・資料事前提示、資料を事前に一読、会議終了時刻の明示や呼び掛けができた教員100%	各分掌課 学部
学びを積み上げる授業	教員の専門性向上	教科学習の充実を図る。	・全体計画や年間指導計画に基づき、生徒の実態に合わせた判断基準を設定し、授業を行う。 ・授業を見合い、他者から指導助言を得る機会を設定する。	・授業が分かると感じた生徒90% ・生徒の実態に合わせて授業を計画し、実施した教員100%	教務課 研修課 学部
		職業の授業の充実を図る。	・学んだことを生徒が活かそうとする場面や活動を設定する。 ・他教科との関連も考えて学習内容を精選する。	・職業の授業が、校外での実習等でも活かせたと答える生徒90% ・生徒が日常生活、実習等で活かせるように授業を行うことができた教員90%	研修課 進路指導課 学部
	豊かな人間性	自他を尊重し合う意識の醸成を図る。	・教職員間、生徒間及び生徒への適切な接し方について確認し合う機会を設定する。	・自他の人権意識を大切にする態度や生徒の自己有用感を高める指導をすることができたと答える教員100%	生徒指導課 学部

学びを共に育てる連携	磐田北高	共に尊重し、協働して生活する態度を育む。	・目的を明確にした交流及び共同学習を行う。	・協力して活動することができた生徒90%	学部 生徒指導課
	地域	地域とのつながりを強める。	・地域販売会やオープンスクールを実施し、生徒が学校、作業製品の特色や魅力等を伝える場面を設定する。 ・地域への情報発信を行う。	・地域での活動や交流の場において生徒が活躍する場面を設定することができた教員100% ・自分なりの言葉や方法で伝えることができたと答える生徒90% ・ホームページやインスタグラム等を活用して情報発信を行った教員100%	運営委員会 各作業班 学部 教務課
	関係機関	関係機関(医療、相談支援、実習先、SCなど)との連携強化を図る。	・個別の教育支援計画、個別移行支援計画を活用し卒業後を見据え、必要な関係機関と連携を図る。	・卒業後のことも含め、必要な関係機関と連携を図ることができた教員100%	進路指導課 教務課 学部
	家庭	家庭との連携を図るため、情報を共有する。	・生徒の授業の様子や進路に関する情報を共有する場を設ける。	・連絡ノートを中心に生徒の授業での様子を伝えることができた教員100% ・進路便り、面談等を通じて、産業現場等における実習前後に、進路に関する情報を伝えることができた教員100%	学部 進路指導課 教務課

4　監査対象期間における特色ある取組

年　度	取　組　概　要	成果及び課題
令和６年度	地域の方々に本校の教育活動や生徒について知ってもらい、地域とのつながりを強めるため、「見付の丘フェスタ」や地域販売会を実施した。磐田市主催の事業である、まちづくり研究所には、高等部３年生の代表生徒が参加し、磐田市をよりよくしていくための方策について研究を行った。	フェスタに向けての取組の発信だけでなく、授業や部活動の取組について、地域主催のイベントや施設訪問等で発表する機会を設け、本校の教育活動や生徒への理解を深めてもらう機会となった。 磐田市主催の事業に参加し生徒自身が意見等を述べることで、地域発展や課題解決に参画することができた。
令和７年度	地域への発信として、量販店や図書館での自主生産製品の販売会を行う。また、オープンスクール、見付の丘フェスタを開催し、地域の方々に参加を呼び掛ける。磐田市の地域活性事業化として、生徒がまちづくり研究所や高校生ラボに参加する。また磐田市内のまち美化活動に取り組む。	７月開催の量販店、図書館での製品販売会は盛況であり、地域の方に分校生徒の取組や作業製品を知っていただく機会となった。今後も見付の丘フェスタや製品販売会等が予定されているため、広報にも力を入れ、地域への情報発信を行う。また、地域の方とのやりとりを通して、生徒の自己有用感を高めていく。

5　教職員について

(1) 令和６年度異動状況

	本務職員					小計	臨時・会計年度職員					小計	合計
	副校長	教頭	教諭	養護教諭	主任		教諭（任）	教諭（臨）	非常勤講師	非常勤嘱託員	非常勤労務職員		
転出	1		2	1		4	1					1	5
退職						0						0	0
転入		1	3	1		5						0	5
新任						0				1		1	1
役職定年						0						0	0
差引増減	△ 1	1	1	0	0	1	△ 1	0	0	1	0	0	1

(2) 現員数

本務職員				小計	臨時・会計年度職員					小計	合計
教頭	教諭	養護教諭	主任		教諭（任）	教諭（臨）	非常勤講師	非常勤嘱託員	非常勤労務職員		
1	16	1	1	19		1	1	1	1	4	23

(3) 健康管理について

【令和６年度】

ア　健康管理の推進

(ｱ)　職員の健康を確保するため定期健康診断と事後措置を徹底し疾病の早期発見早期治療に努めるとともに、健康管理医から職員の健康管理についての指導、助言を受けた。

(ｲ)　職員のメンタル面での相談等について、ラインケアに努めた。

(ｳ)　必要に応じて感染症情報を共有し、基本的な感染症対策を講じた。

イ　職場の健康づくり

(ｱ)　職員安全衛生委員会を毎月開催した。職員個々の勤務状況や健康面を把握し配慮が必要な職員への配慮や改善策等について協議を行い、精神面や過重労働等

による健康被害の防止に努めた。

(ｲ)　毎週金曜日を定時退勤日と定め、18 時完全施錠を実施した。

(ｳ)　時間外勤務の事前申請を徹底し、職員のタイムマネージメント力の向上を図った。

(ｴ)　職場の健康づくり支援事業を活用した職員研修を計画・実施し、健康づくりについての意識向上を図った。

【令和７年度】

ア　健康管理の推進

(ｱ)　職員の定期健康診断の実施と事後措置の徹底に向けて、職員への説明や周知を丁寧に行う。

また、疾病の早期発見・早期治療に努めるとともに、必要に応じて健康管理医から健康管理についての指導、助言を受ける。

(ｲ)　職員のメンタル面での相談等について、ラインケアに努める。相談内容によって県教委教育厚生課や公立学校共済組合によるカウンセリング事業などの外部機関による専門的なケアを推奨する。

(ｳ)　基本的な感染症予防対策を講じながら、感染症に関する情報提供や注意喚起を適宜行う。

イ　職場の健康づくり

(ｱ)　職員安全衛生委員会を毎月開催し職員個々の勤務状況や健康状態を把握するとともに、必要な職員への配慮や改善策等について協議を行うことで、精神面や過重労働等による健康被害の防止に努める。

(ｲ)　毎週金曜日を定時退勤日と定め、18 時完全施錠を徹底することでワークライフバランスの充実・理解を図る。

(ｳ)　時間外勤務の事前申請を徹底し、職員のタイムマネージメント力の向上を図る。

(ｴ)　職場の健康づくり支援事業を活用した職員研修を計画・実施し、健康づくりについての意識向上を図る。

(4) 教職員の研修について

ア　校内研修

【令和６年度】

目　的　・　研　修　内　容	成　　果
研修テーマ:学びを実践する力を育てる授業づくり～なりたい自分を目指し、目的をもって学ぶことを通して～（一年目、窓口：職業科） 仮説①：なりたい自分を見据え、目標を立てて取り組むことで、生徒が目的をもって授業に取り組むことができるのではないか。	仮説①：単元の内容や生徒の実態によって目標を立てることが難しい場合もあったが、例示や選択肢を示すことで取り組むことができた。単元の目標を生徒と振り返る時間を確実に設定することで、その授業の意味を理解しやすくなった。また、生徒が今の

目　的　・　研　修　内　容	成　　果
仮説②：学んだことを現場実習や就労時、卒業後の生活で実践することまでを考えた授業づくりをすることで、生徒が目的を理解して授業に取り組むことができるのではないか。 以上により、生徒が主体的に職業の授業に取り組み、将来について考え、自ら行動する力を養う授業づくりを行う。	進路や職種について真剣に調べている姿など、目的をもって授業に取り組む姿を見取ることができた。 仮説②：実習中や進路選択の場面で職業科の授業から学んだことを生かすことができていた。職業科の授業で学んだ言葉遣いを生かしていた、なりたい自分や得意なことから進路を選ぶことができた、実習に向けての目標設定や実習先を決める上での面談で生かしていた、などの具体的な姿を見取ることができた。また、職業単元整理表を基にして年間指導計画の見直しを行うことができた。次年度に引き継ぎ、実践していく。
課題 仮説①：実習や作業などの実体験できる場であれば目的や成果を実感しやすいが、将来に向けた学習内容では、なかなか目標設定や自己評価自体が難しい部分があった。いかに生徒が自分ごととして捉えることができるかということや、学んだことを生かすことができる仕掛け、場面、展開の工夫を追究していきたい。 仮説②：生徒に生かせそうな場面を聞くと実習と答える生徒が多く、それ以外の場面が出てこなかった。生徒が経験したことであれば、具体的な場面を思い浮かべることができるが、そうでない場合、どのように実践に生かすことができるよう仕掛けをしていくか、今後探っていきたい。	

【令和７年度】

目　的　・　研　修　内　容	成　　果
研修テーマ:学びを実践する力を育てる授業づくり～なりたい自分を目指し、目的をもって学ぶことを通して～（二年目、窓口：職業科） 仮説①：生徒が目標を立て、振り返りを行うことで、自分を見つめ直し目的をもって授業に取り組むことができるのはないか。 ・キャリアパスポートでの自己理解、職業科の目標の設定。学んだことを生かす場面の設定。単元ごと、まとまりで振り返りの設定。 仮説②：教師が実践を想定した授業づくりを行うことで、生徒が学んだことを実践することができるのではないか。 ・昨年度に見直した年間指導計画を基に実践。生徒が学んだことを実践できる場面までを想定して、授業づくりの仕掛けを工夫する。	・学部研修をとおして、各学年で授業づくりを行っている。 ・キャリアパスポートの書式に、「学んだこと、生かしたい場面（日常生活、実習、卒業後）」を記入する欄を設けて、生徒が目標設定をしたり、生徒自身が学んだことを振り返って記入したりしている。 ・各学年で仕掛け表を手掛かりにしながら、授業づくりについて検討をしている。実践前に仕掛けを具体化したり、実践後に振り返って有効だった手立てを整理したりしていく。 ・年間指導計画をもとに、今年度の生徒の実態に応じた単元配列や時数配分になっているかを検討し、必要に応じて修正を行っている。 ・９月に定期訪問や 12 月の公開授業研修会をとおして、授業づくりや研究協議を行っていく。

イ　教職員の専門性向上

【令和６年度】

目　的　・　研　修　内　容	成　　果
・研修課から各学校の研修会について知らせ、管理職	・研修に参加した教員は資料を供覧したり、朝の打合

からは各分掌に関わる研修への参加を促す。 ・県の研修システムを周知し、希望者が抜け落ちることなく受講できるように配慮する。 ・教科の指導の専門性向上のため、全員が１回は公開授業を行い、指導・助言を受けて授業改善を行う。 ・共生・共育への理解を深める。	せや校内研修の場で紹介したりするようにする。また、掲示板や回覧での情報提示も行った。 ・研修の場を情報提供することにより他校や総合教育センター実施の研修に多くの教職員が参加した。 ・全員が一人一授業として公開授業を行って指導・助言を受け、授業研究で得たことを次の授業に生かすことができた。 ・同一敷地内の磐田北高校との合同研修を通して、高等学校における発達障害等の支援について、考える場を持つことができた。
課題 ・北高との合同研修では、生徒の困難さについて情報共有ができた。授業の参観週間では分校の教員が北高を参観できたが、北高からの参観は少なかったため、本校の様子を参観してもらえるように呼び掛けていく。	

【令和７年度】

目　的　・　研　修　内　容	成　　果
・研修課から各学校の研修会について知らせ、管理職からは各分掌に関わる研修への参加を促す。 ・県の研修システムを周知し、希望者が抜け落ちることなく受講できるように配慮する。 ・自己テーマに合わせた授業参観を年２回以上実施する。 ・専門性向上や共生・共育への理解を深めるために、職員研修を行う。	・研修情報を掲示板や回覧で共有し、自己選択による参加を促している。事後には、資料の回覧等で学んだことや得た情報を共有する取組をしている。 ・参考になったことや自分の授業に生かしてみたいことを授業参観シートに記入し、互いに学び合うことができるように取り組んでいる。 ・自立活動研修では、各学年で事例生徒の実態把握や支援方法を検討し、より良い支援の方向性について共通理解を図っている。人権研修では、人権教育や合理的配慮について学んだ。また、カリキュラム・マネジメント研修を実施。実践を振り返り、改善案について意見交換ができた。 ・磐田北高等学校の職員と合同研修を実施し、特別支援教育についての理解を深め、生徒の困難さに対する具体的な支援方法について情報交換ができた。11月に授業を参観し合う予定である。

６　防災対策について

令和６年度は、予定どおり訓練を実施し、防災についての意識向上や避難方法の確認などを行うことができた。

年度別防災訓練実施状況

年　　度	月　　日	内　　容
令和６年度	４月19日	第１回防災訓練（地震）
	５月30日	第２回防災訓練（地震・火災及び初期消火訓練）
	９月　３日	第３回防災訓練（地震、磐田北高との合同避難訓練）

	９月　４日	第４回防災訓練（災害伝言ダイヤル訓練）
	10 月 22 日	待機引き渡し想定訓練
	10 月～２月	第５回、第６回防災訓練 （第５回：地震、第６回：地震・火災告知なし）
	１月 20 日	第７回防災訓練（下校時対応訓練、災害伝言ダイヤル訓練）
	２月４日	非常食体験
		※各回の防災訓練実施後、学年別の防災教育を実施
令和７年度	４月 21 日	第１回防災訓練（地震）
	５月 27 日	第２回防災訓練（地震・火災及び初期消火訓練）
	９月　２日	第３回防災訓練（地震、磐田北高との合同避難訓練）
	９月２日～４日	第４回防災訓練（災害伝言ダイヤル訓練）
	９月　４日	非常食体験
	10 月～12 月	第５回防災訓練（地震：告知なし）
	12 月	第６回防災訓練（下校時対応訓練、災害伝言ダイヤル訓練）
		※各回の防災訓練実施後、学年別の防災教育を実施予定

７　学校開放について

なし

□□□□□□

事 務 執 行 の 根 拠 法 令 調

項　　目	根　　拠　　法　　令
1 学校教育に関すること	教育基本法（第１条、第２条） 学校教育法（第１条、第２条、第３条、第72条、第73条、第74条、第76条、第77条、第82条） 学校教育法施行規則 学校保健安全法（第５条） 学校給食法　(第１条、第２条、第３条、第４条) 特別支援学校の幼稚部及び高等部における学校給食に関する法律（第１条、第２条、第３条） 静岡県立学校設置条例 静岡県立特別支援学校学則 静岡県就学指導委員会規則 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 特別支援学校高等部学習指導要領
2 学校の管理・運営に関すること	学校教育法（第12条、第137条） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第33条） 静岡県立学校管理規則 教育公務員特例法（第21条、第22条） 学校保健安全法（第15条、第27条） いじめ防止対策推進法（第８条、第13条、第15条、第16条、第22条、第23条、第28条） 独立行政法人日本スポーツ振興センター法（第16条、第30条） 社会教育法（第44条、第45条、第47条） 学校図書館法（第３条、第４条、第５条） 静岡県立学校職員安全衛生管理規程 静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱 静岡県教育委員会処務規程 特別支援学校への就学奨励に関する法律（第1条、第2条、第3条） 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行令 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行規則 特別支援学校就学奨励費負担金等及び要保護及準要保護児童生徒援助費補助金交付要綱 要保護及準要保護児童生徒援助費補助金及び特別支援教育就学奨励費補助金交付要綱

□□□□□□

学 校 施 設 の 概 要

1 面積及び所有区分

(1) 本校　　(令和7年8月31日現在)

区分		面積 ㎡	所有内訳 県有 ㎡	国有 ㎡	市町村有 ㎡	民有 ㎡	摘要
学校敷地		21,719.90	20,708.90		210.00	801.00	
内訳	校舎敷地	11,887.00	11,887.00				
	運動場敷地	4,364.00	4,364.00				
	その他の敷地	5,468.90	4,457.90		210.00	801.00	市町村有、民有：作業学習用農園
校舎		建 4,043.64 延 8,248.70	3,803.45 7,791.72			240.19 456.98	民有:仮設校舎(民間リース) 借受期間H17.5.2～R12.3.31
体育館		建 500.00 延 500.00	500.00 500.00				
その他の建物		建 916.11 延 916.11	916.11 916.11				
プール		255	255				大 25m×8m 小 11m×5m

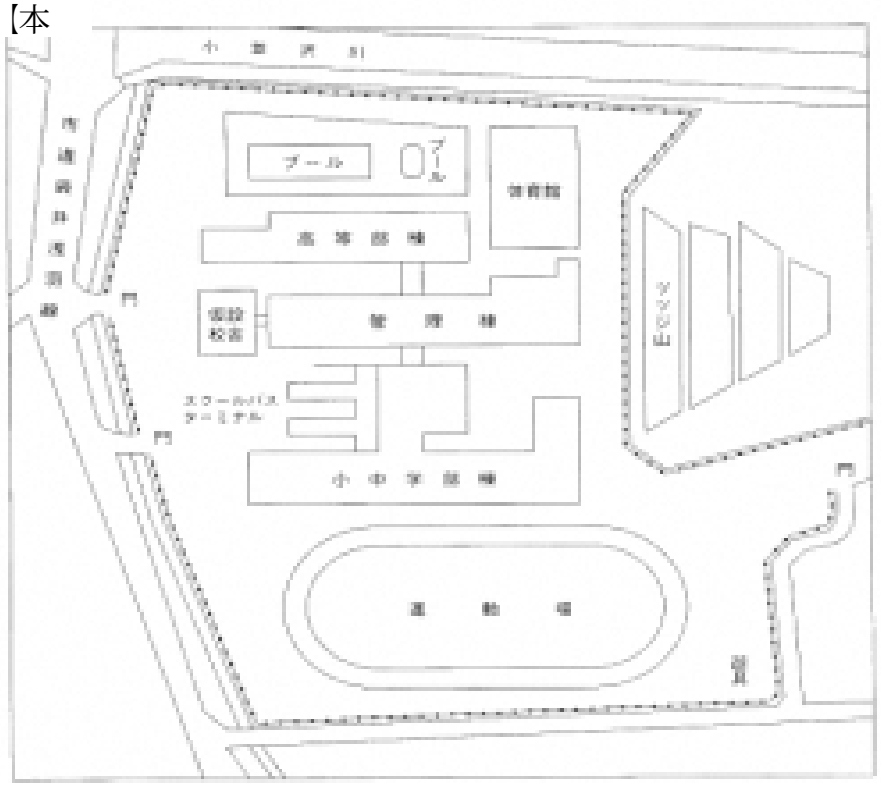
(2) 磐田見付分校　　(令和7年8月31日現在)

区分		面積 ㎡	所有内訳 県有 ㎡	国有 ㎡	市町村有 ㎡	民有 ㎡	摘要
学校敷地		3,500.40	3,500.40				磐田北高等学校使用承認
内訳	校舎敷地	2,163.40	2,163.40				
	運動場敷地	1,337.00	1,337.00				
校舎		建 927.86 延 739.25	927.86 739.25				

2　配置・規模等

(1)　校舎の配置図

【本



【磐田見付分校】

(2)　学校施設の規模等（法面・演習林等を除く）

区　　分		学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当　校	本　　校	16,251.00㎡	8,248.70㎡	4,364.00㎡
	磐田見付分校	3,500.40㎡	739.25㎡	1,337.00㎡
県　平　均		19,266.88㎡	6,361.36㎡	5,302.07㎡

※　本校の校舎延面積には、仮設校舎(民間リース)の456.98㎡を含む。
借受期間：H17.5.2～R12.3.31

□□□□□□

在　籍

○は、訪問教育児童生徒の外数

学年	学科別 / 区分	小学部（本校）			中学部（本校）			高等部（本校）				高等部（磐田見付分校）			
		男子	女子	計	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計
1年	入学者	①19	3	①22	13	7	20	45	20	①14	①34	18	12	4	16
	増加	1		1											
	減少														
	現在	①20	3	①23	13	7	20		20	①14	①34		12	4	16
2年	入学者	①14	10	①24	16	12	28	42	22	11	33	18	14	4	18
	増加	1		1											
	減少								2	1	3				
	2年時当初	①15	10	①25	16	12	28		20	10	30		14	4	18
	増加	2		2					①		①				
	減少					1	1								
	現在	①17	10	①27	16	11	27		①20	10	①30		14	4	18
3年	入学者	12	4	16	20	①10	①30	51	26	9	35	18	13	5	18
	増加														
	減少												1		1
	2年時当初	12	4	16	20	①10	①30		26	9	35		12	5	17
	増加					1	1								
	減少														
	3年時当初	12	4	16	20	①11	①31		26	9	35		12	5	17
	増加														
	減少														
	現在	12	4	16	20	①11	①31		26	9	35		12	5	17
4年	入学者	①16	4	①20											
	増加														
	減少	1		1											
	2年時当初	①15	4	①19											
	増加														
	減少	1		1											
	3年時当初	①14	4	①18											
	増加		1	1											
	減少														
	4年時当初	①14	5	①19											
	増加														
	減少														
	現在	①14	5	①19											

生　徒　調

(令和7年8月31日現在)

学年	学科別 / 区分	小学部(本校)			中学部(本校)			高等部(本校)				高等部(磐田見付分校)			
		男子	女子	計	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計
5年	入学者	21	①12	①33											
	増加														
	減少														
	2年時当初	21	①12	①33											
	増加	1	2	3											
	減少		1	1											
	3年時当初	22	①13	①35											
	増加	1		1											
	減少														
	4年時当初	23	①13	①36											
	増加	①		①											
	減少	2		2											
	5年時当初	①21	①13	②34											
	増加	1		1											
	減少														
	現在	①22	①13	②35											
6年	入学者	21	4	25											
	増加														
	減少														
	2年時当初	21	4	25											
	増加	1		1											
	減少	1		1											
	3年時当初	21	4	25											
	増加	1		1											
	減少	1		1											
	4年時当初	21	4	25											
	増加	1		1											
	減少														
	5年時当初	22	4	26											
	増加	1		1											
	減少														
	6年時当初	23	4	27											
	増加														
	減少														
	現在	23	4	27											
合計		④108	①39	⑤147	49	①29	①78		①66	①33	②99		38	13	51

□□□□□□

入学志願者及び入学者数調

（本校）

区　　分		令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
学　科　別		高等部	高等部	高等部	高等部	高等部
生徒定員(A)		45	42	51	42	45
募集者数(B)		45	42	51	42	45
志願者数	男	27	25	26	22	20
	女	15	13	9	11	15
	計(C)	42	38	35	33	35
受検者数	男	27	25	26	22	20
	女	15	13	9	11	15
	計(D)	42	38	35	33	35
合格者数	男	27	25	26	22	20
	女	15	13	9	11	15
	計(E)	42	38	35	33	35
志願倍率(C)/(B)		0.93	0.90	0.69	0.79	0.78
受検倍率(D)/(B)		0.93	0.90	0.69	0.79	0.78
入学者数	男	27	25	26	22	20
	女	15	13	9	11	15
	計(F)	42	38	35	33	35
充足率(F)/(A)		0.93	0.90	0.69	0.79	0.78

（磐田見付分校）

区　　分		令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
学　科　別		高等部	高等部	高等部	高等部	高等部
生徒定員(A)		18	18	18	18	18
募集者数(B)		18	18	18	18	18
志願者数	男	10	9	16	18	12
	女	5	3	9	6	4
	計(C)	15	12	25	24	16
受検者数	男	10	9	16	18	12
	女	5	3	9	6	4
	計(D)	15	12	25	24	16
合格者数	男	9	9	13	14	12
	女	5	3	5	4	4
	計(E)	14	12	18	18	16
志願倍率(C)/(B)		0.83	0.67	1.39	1.33	0.89
受検倍率(D)/(B)		0.83	0.67	1.39	1.33	0.89
入学者数	男	9	9	13	14	12
	女	5	3	5	4	4
	計(F)	14	12	18	18	16
充足率(F)/(A)		0.78	0.67	1.00	1.00	0.89

□□□□□□

卒 業 生 の 動 向 調

区　　分		中学部	高　等　部（本科）		合　計
			本　校	磐田見付分校	
高等学校(本科)	全日制				
	定時制				
	通信制				
特別支援学校高等部		24			24
その他高等学校等					
大学等	大学(学部)				
	短期大学(本科)				
	大学・短大の通信教育学部等				
	その他大学等				
特別支援学校高等部専攻科					
専修学校(専門課程)					
専修学校(一般課程)・各種学校					
公共職業能力開発施設等					
就　　職			9	11	20
上 記 以 外 ※		2	28	1	31
不詳・死亡					
計（卒業者総数）		26	37	12	75

(再掲)「上記以外※」のうち、社会福祉施設等入所、通所者

区　　分	中学部	高　等　部（本科）		合　計
		本　校	磐田見付分校	
児童福祉施設				
障害者支援施設	0	28	0	28
(うち就労系支援事業利用者)	(0)	(20)	(0)	(20)
医療機関			1	1
計	0	28	1	29

□□□□□□

生　徒　の　状　況

1　生徒の出身地域及び通学方法

(1) 出身地　　（令和７年８月31日現在）（単位：人）

（本校）

市　町　名	磐田市	掛川市	袋井市	森　町	その他	合　計
生　徒　数	173	20	123	14	2	332
構成比％	52.1%	6.0%	37.0%	4.2%	0.6%	100%

（磐田見付分校）

市　町　名	磐田市	掛川市	袋井市	森　町	合　計
生　徒　数	25	9	9	8	51
構成比％	49.0%	17.7%	17.7%	15.6%	100%

(2) 通学方法　　（令和７年８月31日現在）（単位：人）

（本校）

区　分	ｽｸｰﾙﾊﾞｽ	交通機関	自家用車（送迎）	徒　歩	自転車	合　計
生　徒　数	187	38	80	9	10	324
構成比％	57.7%	11.7%	24.7%	2.8%	3.1%	100%

（磐田見付分校）

区　分	交通機関	自家用車（送迎）	徒　歩	自転車	合　計
生　徒　数	28		5	18	51
構成比％	54.9%		9.8%	35.3%	100%

(3)（特別支援学校）

訪問教育の状況　　（令和７年８月31日現在）（単位：人）

訪問教員等			市　町	磐田市	掛川市	袋井市	森　町	菊川市	計
小・中学部	教諭	2	小学部	2	1	1		1	5
	講師		中学部				1		1
高等部	教諭	1	高等部		1			1	1
	講師								
計		3	計	2	2	1	1	2	8

2　部（クラブ）の加入状況　（令和７年８月31日現在）（単位：人）

（本校）

区　分		高等部			
		運動部	文化部	未加入者	計
部(ｸﾗﾌﾞ)数		0	0		0
男子	１年				
	２年				
	３年				
	計(A)				
	構成比				―――
女子	１年				
	２年				
	３年				
	計(B)				
	構成比				―――
合計	(A)+(B)				
	構成比				―――

※令和６年度より部（クラブ）は廃止となった。

（磐田見付分校）

区　分		高等部			
		運動部	文化部	未加入者	計
部(ｸﾗﾌﾞ)数		1	1		2
男子	１年	2	3	7	12
	２年	6	4	4	14
	３年	7	1	4	12
	計(A)	15	8	15	38
	構成比	29.4%	15.7%	29.4%	74.5%
女子	１年	1	1	2	4
	２年	2		2	4
	３年	2		3	5
	計(B)	5	1	7	13
	構成比	9.8%	2.0%	13.7%	25.5%
合計	(A)+(B)	20	9	22	51
	構成比	39.2%	17.7%	43.1%	100.0%

3　障害別児童生徒数　　（令和７年８月31日現在）（単位：人）

（本校）

区分		１年	２年	３年	４年	５年	６年	合計	学級数
小学部	単一障害	12	20	8	9	20	14	83	17
	重複障害	10	3	6	7	11	10	47	16
	肢体重複	1 (1)	4 (1)	2	3 (1)	4 (2)	3	17 (5)	8 (2)
	合計	23 (1)	27 (1)	16	19 (1)	35 (2)	27	147 (5)	41 (2)
中学部	単一障害	12	15	20				47	9
	重複障害	6	9	9				24	9
	肢体重複	2	3	2 (1)				7 (1)	3
	合計	20	27	31 (1)				78 (1)	21
高等部	単一障害	29	25	31				85	11
	重複障害	3	3	3				9	3
	肢体重複	2 (1)	2 (1)	1				5	3 (1)
	合計	34 (1)	30 (1)	35				99 (2)	17 (1)

（　）は訪問教育児童生徒の内数

（磐田見付分校）

区分		１年	２年	３年	合計	学級数
高等部	単一障害	16	18	17	51	6
	重複障害					
	肢体重複					
	合計	16	18	17	51	6

4　起因疾患別児童生徒数　　（令和７年８月31日現在）（単位：人）

（本校）

区分	脳性	染色体	先天性神経・代謝・筋肉等	自閉症スペクトラム	その他の知的発達遅滞	計
小学部	11	22	9	84	21	147
中学部	6	15	3	31	23	78
高等部	9	13	1	44	32	99
訪問	5	1	2			8
計	31	51	15	159	76	332

（磐田見付分校）

区分	脳性	染色体	先天性神経・代謝・筋肉等	自閉症スペクトラム	その他の知的発達遅滞	計
高等部				19	32	51
計				19	32	51

□□□□□□

特別支援学校における生産物売払調

令和７年度

（令和７年８月31日現在）

<table>
<tr><td></td><td colspan="4">主な生産品目</td></tr>
<tr><td>7
年
度</td><td colspan="4">【本校】
＜青果＞
　ナス、ピーマン、きゅうり、大葉
【磐田見付分校】
＜革工芸品＞
　ペンケース（丸型)、ベルトキーリング、コインケース、コードクリップ(大)、コードクリップ(犬)、コースター
＜木工製品＞
　ウッドランプ、ウッドランプミニ
＜手芸製品＞
　マクラメショルダーバッグ、マクラメ丸コースター、マクラメキーホルダー、ショートストラップ、平編みロングストラップ、マクラメ四角コース、マクラメバネポーチ
＜縫製品＞
　バッグ(Ａ)、畳へりポーチ、ポーチ</td></tr>
<tr><td></td><td>① 売払金額</td><td>109,500円</td><td>②前年度との差額</td><td>△891,350円</td></tr>
<tr><td>6
年
度</td><td colspan="4">【本校】
＜青果＞
　ナス、大根、ジャガイモ、ブロッコリー
＜革工芸品＞
　マルチケース、コインケース、カードケース、コードクリップ、ビーズストラップ、ベルトキーホルダー、三角コインケース、メガネケース
＜紙工芸品＞
　ポチ袋、メモ帳、アロマフラワー、平編みかご(大)、平編みかご(小)、バッグ、ダストボックス、編みかご、小物入れ、リース(大)、リース(中)、写真立て、壁掛けカレンダー、キーホルダー
＜手芸製品＞
　においぶくろ、ストラップ、アンブレラマーカー、ポケットティッシュカバー、マルチカバー、トートバッグ(大)、トートバッグ(小)、巾着袋(大)、巾着袋(小)、サコッシュ、イニシャルレジンキーホルダー、小物袋、ウォールポケット、織コースター、消臭ぶくろ、ポンポンヘアゴム、デニムリボンヘアゴム、リース、タッセルストラップ、キーホルダー、ネックストラップ
＜木工製品＞
　コースター、メモスタンド、写真立て、カッティングボード、ティッシュケース、キーホルダー、収納ケース
＜陶芸品＞
　小鉢、茶碗、丸皿、三品皿、さんま皿、フリーカップ、コーヒーカップ、湯呑み、花瓶、角皿、デザートカップ、マグカップ、マルチ深皿、角皿(特大)、花型皿、葉型皿、うねうね皿、鉢植え、花型皿(中)、大皿、箸置き
【磐田見付分校】
＜革工芸品＞
　ペンケース（立体型)、ベルトキーホルダー、コードクリップ、キーケース、</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td></td><td colspan="4">ペンケース(クロス縫い)、ペンケース（丸形)、ベルトキーケース、マルチケース、コードクリップ(犬)、コードクリップ(猫)、ペンケース、ベルトキーリング
＜木工製品＞
ウッドランプ、木製コースター、ペン立て、竹コースター
＜手芸製品＞
マクラメショルダーバッグ、マクラメコースター、マクラメキーホルダー、ねじりストラップ、平編みロングストラップ、マクラメバネポーチ
＜縫製品＞
帆布ポーチ、帆布バッグ、畳ウォレット、畳へりポーチ、帆布バッグ(大)、帆布バッグ(小)、フラットポーチ、ボタンポーチ、丸底ポーチ、帆布バッグ(ミニ)、切り替えポーチ、ボックスポーチ</td></tr>
<tr><td></td><td>① 売払金額</td><td>1,000,850 円</td><td>② 前年度との差額</td><td>△104,150 円</td></tr>
<tr><td rowspan="2">5
年
度</td><td colspan="4">【本校】
＜青果＞
タマネギ、サツマイモ
＜革工芸品＞
ビーズストラップ、ペンケース、スクエアコインケース、カードケース、コードクリップ、ベルトキーホルダー、レザーコースター
＜紙工芸品＞
カレンダー、ポーチ、平編みかご、小物入れ、カトラリーケース、ダストボックス、卓上カレンダー、マグネット、ペン立て、ふたつきかご、レターセット、卓上カレンダー、メッセージカード
＜手芸製品＞
トートバッグ、ポーチ、ランチバッグ、レジンイニシャルキーホルダー、レジンヘアゴム、キャンドル、クリップ、グラスコード、ストラップ、巾着袋、小物入れ、レジンイヤリング、ブレスレット、マスコット
＜木工製品＞
プリントトレー、カッティングボード、コースター、ペン立て、眼鏡スタンド
＜陶芸品＞
湯飲み、フリーカップ、マグカップ、花瓶、丸皿、角皿、さんま皿、大皿、小鉢、茶碗、箸置き、鉢植え、デザートカップ、三品皿
【磐田見付分校】
＜革工芸品＞
ペンケース、ベルトキーホルダー、コードクリップ、三角コインケース、スマホショルダー
＜木工製品＞
ウッドランプ、木製コースター
＜手芸製品＞
マクラメキーホルダー、マクラメコースター、マクラメバッグ、マクラメブレスレット、マフラー、マクラメショルダーストラップ
＜縫製品＞
帆布ポーチ、帆布バッグ、畳ウォレット、畳へりポーチ、畳クラッチバッグ</td></tr>
<tr><td>① 売払金額</td><td>1,105,000 円</td><td>② 前年度との差額</td><td>336,000 円</td></tr>
</table>

様式第５号

歳入予算執行状況調

一般会計

（令和 6年度 ）

区分	調定額 A	収入済額		不納欠損額 D	収入未済額			収入歩合	納期内収入率
		納期内 B	納期後 C		納期限経過 E	納期限未到来 F	計	$\frac{B+C}{A-D-F}$	$\frac{B}{A-D-F}$
	円	円	円	円	円	円	円	%	%
款 08使用料及び手数料	600	600	0	0	0	0	0	100.0	100.0
項 02手数料	600	600	0	0	0	0	0	100.0	100.0
目 07教育手数料	600	600	0	0	0	0	0	100.0	100.0
02証明書発行手数料	600	600	0	0	0	0	0	100.0	100.0
款 10財産収入	1,012,642	1,012,642	0	0	0	0	0	100.0	100.0
項 02財産売払収入	1,012,642	1,012,642	0	0	0	0	0	100.0	100.0
目 02物品売払収入	11,792	11,792	0	0	0	0	0	100.0	100.0
01不用品売払収入	11,792	11,792	0	0	0	0	0	100.0	100.0
備品	11,792	11,792	0	0	0	0	0	100.0	100.0
目 03生産物売払収入	1,000,850	1,000,850	0	0	0	0	0	100.0	100.0
07学校生産物売払収入	1,000,850	1,000,850	0	0	0	0	0	100.0	100.0
款 14諸収入	5,422,426	5,422,426	0	0	0	0	0	100.0	100.0
項 07雑入	5,422,426	5,422,426	0	0	0	0	0	100.0	100.0
目 02雑入	5,422,426	5,422,426	0	0	0	0	0	100.0	100.0
87保険料負担金	5,397,116	5,397,116	0	0	0	0	0	100.0	100.0
保険料負担金	218,685	218,685	0	0	0	0	0	100.0	100.0
非常勤職員	5,178,431	5,178,431	0	0	0	0	0	100.0	100.0
90雑収	25,310	25,310	0	0	0	0	0	100.0	100.0
雑収	3,310	3,310	0	0	0	0	0	100.0	100.0
古新聞・雑誌	22,000	22,000	0	0	0	0	0	100.0	100.0
計	6,435,668	6,435,668	0	0	0	0	0	100.0	100.0

様式第５号

歳　入　予　算

一般会計

区　分	調定額 A	収入済額 納期内 B	収入済額 納期後 C
	円	円	円
款 10財産収入	109,500	109,500	0
項 02財産売払収入	109,500	109,500	0
目 03生産物売払収入	109,500	109,500	0
07学校生産物売払収入	109,500	109,500	0
款 14諸収入	2,001,572	1,992,211	0
項 07雑入	2,001,572	1,992,211	0
目 02雑入	2,001,572	1,992,211	0
90保険料負担金	1,991,336	1,991,336	0
保険料負担金	62,220	62,220	0
非常勤職員	1,929,116	1,929,116	0
93雑収	10,236	875	0
雑収	875	875	0
古新聞・雑誌	9,361	0	0
計	2,111,072	2,101,711	0

執　行　状　況　調

（令和 7年度 ）
（令和 7年 8月31日現在）

不納欠損額 D	収入未済額 納期限経過 E	収入未済額 納期限未到来 F	収入未済額 計	収入歩合 B+C / A-D-F	納期内収入率 B / A-D-F
円	円	円	円	%	%
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	9,361	9,361	100.0	100.0
0	0	9,361	9,361	100.0	100.0
0	0	9,361	9,361	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	9,361	9,361	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	9,361	9,361	-	-
0	0	9,361	9,361	100.0	100.0

様式第７号

現　金　出　納　調

(令和 6年度)

区　分	受　入　額			払出額	残　高	収書及び領収員総額及び枚数 出納員総額及び枚数 発行枚数	調書総額 払込書総額 金領収書枚数 現金及び枚数
	越　高	受　高	計				
教育手数料	円 0	円 600	円 600	円 600	円 0	円 600 2　枚	円 600 2　枚
計	0	600	600	600	0	600 2　枚	600 2　枚

□□□□□□

預　　金　　調

(令和７年８月31日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高　円	摘　　要
静岡銀行袋井支店	無利息型普通預金	355983	静岡県立袋井特別支援学校 資金前渡者　鈴木 滋夫	0	給料法定外控除 県費現金支払経費 払込金資金前渡
静岡銀行袋井支店	無利息型普通預金	751274	(自振口) 静岡県立袋井特別支援学校 資金前渡者　鈴木 滋夫	0	通信・光熱水費 社会保険料等の 口座振替
静岡銀行袋井支店	無利息型普通預金	366686	静岡県立袋井特別支援学校 奨励費 代理受領者　鈴木 滋夫	0	就学奨励費の代 理受領申込保護 者分の受入れ
残　高　合　計				0	

□□□□□□

郵 券 等 受 払 調

（令和７年８月31日現在）

（本校）　　（単位：枚、円）

区分	種類	令和６年度						令和７年度								摘要
		繰越		受入		払出		繰越		受入		払出		差引現在高		
		枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	
郵券	10円券	0	0	10	100	0	0	10	100	0	0	0	0	10	100	文書発送用
	26円券	0	0	90	2,340	54	1,404	36	936	0	0	26	676	10	260	
	63円券	1	63	0	0	0	0	1	63	0	0	0	0	1	63	
	84円券	50	4,200	125	10,500	139	11,676	36	3,024	0	0	26	2,184	10	840	
	85円券	0	0	1	85	0	0	1	85	0	0	0	0	1	85	
	94円券	0	0	1	94	1	94	0	0	0	0	0	0	0	0	
	110円券	0	0	211	23,210	163	17,930	48	5,280	230	25,300	57	6,270	221	24,310	
	レターパック430	0	0	5	2,150	1	430	4	1,720	0	0	0	0	4	1,720	
計			4,263		38,479		31,534		11,208		25,300		9,130		27,378	

□□□□□□

郵 券 等 受 払 調

（令和７年８月31日現在）

（磐田見付分校）　　（単位：枚、円）

区分	種類	令和６年度						令和７年度								摘要
		繰越		受入		払出		繰越		受入		払出		差引現在高		
		枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	
郵券	10円券	8	80	0	0	0	0	8	80	0	0	0	0	8	80	文書発送用
	26円券	0	0	10	260	6	156	4	104	0	0	1	26	3	78	
	84円券	21	1,764	10	840	27	2,268	4	336	0	0	1	84	3	252	
	94円券	1	94	1	94	2	188	0	0	0	0	0	0	0	0	
	110円券	0	0	70	7,700	41	4,510	29	3,190	8	880	21	2,310	16	1,760	
計			1,938		8,894		7,122		3,710		880		2,420		2,170	

□□□□□□

材 料 品 受 払 調

（令和7年8月31日現在）

（本　校）

区分 / 品名	令和6年度						令和7年度								摘要
	繰越		受入		払出		繰越		受入		払出		差引現在高		
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
牛革	0	0	701デシ	104,448	701デシ	104,448	0	0	465デシ	67,296	0	0	465デシ	67,296	
牛床革	0	0	1枚	3,300	1枚	3,300	0	0	1枚	3,300	0	0	1枚	3,300	
粘土	0	0	340kg	66,000	340kg	66,000	0	0	260kg	51,810	120kg	24,090	140kg	27,720	
計		0		173,748		173,748		0		122,406		24,090		98,316	

□□□□□□

材 料 品 受 払 調

（令和7年8月31日現在）

（磐田見付分校）

区分 / 品名	令和6年度						令和7年度								摘要
	繰越		受入		払出		繰越		受入		払出		差引現在高		
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
牛革	0	0	739デシ	129,760	739デシ	129,760	0	0	480ﾃﾞｼ	79,104	238デシ	38,080	242デシ	41,024	
計		0		129,760		129,760		0		79,104		38,080		41,024	

様式第８号

歳 入 歳 出 外 現 金 調

(令和 6年度)

区　分	越 高	受 高	払 高	残 高	摘 要
公立学校共済組合掛金等	円 0	円 2,874,732	円 2,874,732	円 0	
教職員互助組合掛金等	0	210,438	210,438	0	
所得税	27,092	557,657	537,863	46,886	
計	27,092	3,642,827	3,623,033	46,886	

様式第８号

歳 入 歳 出 外 現 金 調

(令和 7年度)
(令和 7年 8月31日現在)

区　分	越 高	受 高	払 高	残 高	摘 要
公立学校共済組合掛金等	円 0	円 1,212,779	円 1,212,779	円 0	
教職員互助組合掛金等	0	88,302	88,302	0	
所得税	46,886	514,285	522,254	38,917	
計	46,886	1,815,366	1,823,335	38,917	

様式第１０号

歳 出 予 算 執 行 状 況 調

一般会計　　（令和 6年度）

区　　分	令達予算額	支出済額	支出未済額	摘　要
	円	円	円	
款　11教育費	275,119,406	272,079,406	3,040,000	
項　02教育委員会費	11,071,830	8,031,830	3,040,000	
目　03教育管理費	10,825,830	7,785,830	3,040,000	
08旅費	10,000	10,000	0	
02普通旅費	10,000	10,000	0	
10需用費	1,294,670	1,294,670	0	
01その他の需用費	1,294,670	1,294,670	0	
11役務費	51,260	51,260	0	
12委託料	660,000	660,000	0	
13使用料及び賃借料	2,970,000	2,970,000	0	
14工事請負費	5,698,000	2,658,000	3,040,000	
17備品購入費	141,900	141,900	0	
目　04教育厚生費	246,000	246,000	0	
01報酬	246,000	246,000	0	
03非常勤職員報酬	246,000	246,000	0	
項　07特別支援学校費	245,764,122	245,764,122	0	
目　01特別支援学校費	88,108,207	88,108,207	0	
01報酬	38,618,224	38,618,224	0	
03非常勤職員報酬	38,618,224	38,618,224	0	
03職員手当等	13,971,480	13,971,480	0	
01その他の職員手当等	13,971,480	13,971,480	0	
04共済費	30,667,286	30,667,286	0	
02報酬、給料及び賃金に係る社会保険料	30,667,286	30,667,286	0	
08旅費	4,851,217	4,851,217	0	
01その他の旅費	1,743,269	1,743,269	0	
02普通旅費	3,107,948	3,107,948	0	
目　02特別支援学校管理費	157,655,915	157,655,915	0	
01報酬	2,773,050	2,773,050	0	

様式第１０号

一般会計　　（令和 6年度）

区　　分	令達予算額	支出済額	支出未済額	摘　要
	円	円	円	
03非常勤職員報酬	2,773,050	2,773,050	0	
07報償費	887,911	887,911	0	
01その他の報償費	887,911	887,911	0	
08旅費	1,775,399	1,775,399	0	
01その他の旅費	127,489	127,489	0	
02普通旅費	1,647,910	1,647,910	0	
10需用費	19,758,600	19,758,600	0	
01その他の需用費	19,746,558	19,746,558	0	
02食糧費	12,042	12,042	0	
11役務費	2,818,935	2,818,935	0	
12委託料	92,287,800	92,287,800	0	
13使用料及び賃借料	1,248,465	1,248,465	0	
15原材料費	303,508	303,508	0	
17備品購入費	2,146,595	2,146,595	0	
18負担金、補助及び交付金	66,900	66,900	0	
19扶助費	33,482,952	33,482,952	0	
26公課費	105,800	105,800	0	
項　08学校教育費	18,283,454	18,283,454	0	
目　03特別支援教育費	338,663	338,663	0	
01報酬	312,000	312,000	0	
03非常勤職員報酬	312,000	312,000	0	
04共済費	1,097	1,097	0	
02報酬、給料及び賃金に係る社会保険料	1,097	1,097	0	
08旅費	25,566	25,566	0	
01その他の旅費	25,566	25,566	0	
目　04健康体育費	17,944,791	17,944,791	0	
07報償費	21,600	21,600	0	
01その他の報償費	21,600	21,600	0	

様式第１０号

一般会計　　（令和 6年度）

区　　分	令達予算額	支出済額	支出未済額	摘　　要
	円	円	円	
11役務費	310,390	310,390	0	
12委託料	17,612,801	17,612,801	0	
計	275,119,406	272,079,406	3,040,000	

様式第１０号

歳 出 予 算 執 行 状 況 調

（令和 7年度）
一般会計　　（令和 7年 8月31日現在）

区　　分	令達予算額	支出済額	支出未済額	摘　要
	円	円	円	
款　12教育費	268,731,249	90,046,939	178,684,310	
項　02教育委員会費	10,490,570	4,336,120	6,154,450	
目　02教育総務費	20,000	10,000	10,000	
07報償費	20,000	10,000	10,000	
01その他の報償費	20,000	10,000	10,000	
目　03教育管理費	10,224,570	4,326,120	5,898,450	
08旅費	20,000	9,760	10,240	
02普通旅費	20,000	9,760	10,240	
10需用費	1,366,000	235,840	1,130,160	
01その他の需用費	1,366,000	235,840	1,130,160	
11役務費	53,570	3,520	50,050	
13使用料及び賃借料	3,102,000	1,034,000	2,068,000	
14工事請負費	5,680,000	3,040,000	2,640,000	
18負担金、補助及び交付金	3,000	3,000	0	
目　04教育厚生費	246,000	0	246,000	
01報酬	246,000	0	246,000	
03非常勤職員報酬	246,000	0	246,000	
項　07特別支援学校費	239,612,918	79,439,578	160,173,340	
目　01特別支援学校費	91,027,238	27,607,155	63,420,083	
01報酬	38,636,000	12,685,138	25,950,862	
03非常勤職員報酬	38,636,000	12,685,138	25,950,862	
03職員手当等	16,591,000	7,860,582	8,730,418	
01その他の職員手当等	16,591,000	7,860,582	8,730,418	
04共済費	30,667,000	5,029,242	25,637,758	
02報酬、給料及び賃金に係る社会保険料	30,667,000	5,029,242	25,637,758	
08旅費	5,133,238	2,032,193	3,101,045	
01その他の旅費	1,744,000	530,408	1,213,592	
02普通旅費	3,389,238	1,501,785	1,887,453	

様式第１０号

（令和 7年度）
一般会計　　（令和 7年 8月31日現在）

区　　分	令達予算額	支出済額	支出未済額	摘　要
	円	円	円	
目　02特別支援学校管理費	148,585,680	51,832,423	96,753,257	
01報酬	2,821,800	27,000	2,794,800	
03非常勤職員報酬	2,821,800	27,000	2,794,800	
07報償費	1,281,500	395,411	886,089	
01その他の報償費	1,281,500	395,411	886,089	
08旅費	943,560	26,505	917,055	
01その他の旅費	151,560	26,505	125,055	
02普通旅費	792,000	0	792,000	
10需用費	11,028,800	4,773,504	6,255,296	
01その他の需用費	10,995,800	4,769,282	6,226,518	
02食糧費	33,000	4,222	28,778	
11役務費	3,587,300	742,980	2,844,320	
12委託料	91,108,720	30,279,260	60,829,460	
13使用料及び賃借料	1,351,000	480,396	870,604	
15原材料費	420,000	201,510	218,490	
17備品購入費	500,000	158,345	341,655	
18負担金、補助及び交付金	129,000	77,500	51,500	
19扶助費	35,356,000	14,670,012	20,685,988	
26公課費	58,000	0	58,000	
項　08学校教育費	18,627,761	6,271,241	12,356,520	
目　03特別支援教育費	459,000	56,817	402,183	
01報酬	414,000	54,000	360,000	
03非常勤職員報酬	414,000	54,000	360,000	
04共済費	2,000	0	2,000	
02報酬、給料及び賃金に係る社会保険料	2,000	0	2,000	
08旅費	43,000	2,817	40,183	
01その他の旅費	43,000	2,817	40,183	
目　04健康体育費	18,168,761	6,214,424	11,954,337	

様式第１０号

（令和 7年度）
一般会計　　（令和 7年 8月31日現在）

区　　分	令達予算額	支出済額	支出未済額	摘　要
	円	円	円	
07報償費	201,600	27,000	174,600	
01その他の報償費	201,600	27,000	174,600	
11役務費	303,820	282,260	21,560	
12委託料	17,663,341	5,905,164	11,758,177	
計	268,731,249	90,046,939	178,684,310	

□□□□□□

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

節　名	会計	款	項	目	執行済額 (円)		
					令和5年度	令和6年度	左のうち、令和5年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費		660,000	
	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		92,287,800	
	一般	教育費	学校教育費	健康体育費		17,612,801	
計					71,802,630	110,560,601	0
(14)工事請負費	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費		2,658,000	
計					418,000	2,658,000	0
(16)公有財産購入費						0	
計					0	0	0
(17)備品購入費	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費		141,900	
	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		2,146,595	0
計					3,821,400	2,288,495	0
(18)負担金、補助及び交付金	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		66,900	
計					66,900	66,900	0
(21)補償、補填及び賠償金						0	
計					0	0	0

□□□□□□

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和7年8月31日現在)

節　名	会計	款	項	目	執行済額 (円)	
						うち、令和6年度からの繰越額分
(12)委託料	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	30,279,260	0
	一般	教育費	学校教育費	健康体育費	5,905,164	0
計					36,184,424	0
(14)工事請負費	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費	3,040,000	3,040,000
計					3,040,000	3,040,000
(16)公有財産購入費					0	0
計					0	0
(17)備品購入費	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	158,345	0
計					158,345	0
(18)負担金、補助及び交付金	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費	3,000	0
	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	77,500	0
計					80,500	0
(21)補償、補填及び賠償金					0	0
計					0	0

□□□□□□

委　　託　　料　　に

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額		
				当初額	変更 増減額	計
参考 1	静岡県立袋井高等学校外３校防鼠防虫業務委託	㈱帝装化成 掛川営業所		円 539,000	円 0	円 539,000
参考 2	静岡県立袋井高等学校外２校自家用電気工作物保安管理業務委託	遠鉄アシスト㈱		842,160	0	842,160
参考 3	静岡県立袋井商業高等学校外３校浄化槽保守点検業務委託	㈱フクエイ		2,442,660	0	2,442,660
参考 4	静岡県立袋井商業高等学校外２校可燃物収集運搬処分業務委託	㈲小久江清掃		運搬料1回 4,400 処分料1kg 16.3	0	運搬料1回 4,400 処分料1kg 16.3
参考 5	静岡県立磐田西高等学校外６校水泳プール浄化装置保守点検業務委託	㈲山静商会		467,500	0	467,500
参考 6	静岡県立磐田農業高等学校外８校消防用設備等保守点検業務委託	静岡県消防設備保守点検業協同組合		9,322,500	95,992	9,418,492
参考 7	静岡県立磐田南高等学校外8校警備業務委託	綜合警備保障㈱静岡支社		13,602,600	0	13,602,600
参考 8	静岡県立磐田西高等学校外４校可燃物収集運搬処分業務委託	㈱ハシモト		運搬料１回 5,940 収納容器料 1,100 処分料１kg 17.6	0	運搬料１回 5,940 収納容器料 1,100 処分料１kg 17.6
参考 9	静岡県立磐田北高等学校外４校ガスヒートポンプ点検業務委託	ヤマザキ・シー・エー㈱		3,880,800	0	3,880,800
	計	9件				

関　　す　　る　　調

（令和７年度）
（令和７年８月31日時点）

契約締結方法	契約期間	支出年月日	金　　額	委託業務の内容	摘　要
	7.4.8～8.3.31			袋井高校ほか３校 ネズミ及びゴキブリ等防除業務	袋井高校
	7.4.1～8.3.31			袋井高校ほか２校 電気工作物に対する保安上の点検業務	袋井高校
	7.4.1～8.3.31			袋井商業高校ほか３校 浄化槽の保守点検業務	袋井商業高校
	7.4.7～8.3.27			袋井商業高校ほか２校 可燃物の収集運搬処分業務	袋井商業高校
	7.4.11～7.11.28			磐田西高校ほか６校 プール浄化装置設備点検業務	磐田西高校
	7.4.1～8.3.31			磐田農業高校ほか８校 消防設備の保守及び機器点検・総合点検業務	磐田農業高校
	6.10.1～11.9.30			磐田南高校ほか8校 警報機器による警備業務	磐田南高校
	7.4.11～8.3.31			磐田西高校ほか４校 可燃物の収集運搬処分業務	磐田西高校
	7.8.13～8.1.31			磐田北高校ほか４校 ガスヒートポンプ点検業務	磐田北高校

□□□□□□

委　　託　　料　　に

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額		
				当初額	変更増減額	計
参考1	静岡県立袋井高等学校外３校防鼠防虫業務委託	㈱帝装化成掛川営業所		円 539,000	円 0	円 539,000
参考2	静岡県立袋井高等学校外２校自家用電気工作物保安管理業務委託	遠鉄アシスト㈱		942,480	0	942,480
参考3	静岡県立袋井商業高等学校外３校浄化槽保守点検業務委託	㈱フクエイ		2,407,680	0	2,407,680
参考4	静岡県立袋井商業高等学校外２校可燃物収集運搬処分業務委託	㈲小久江清掃		運搬料1回 4,400 処分料1kg 16.3	0	運搬料1回 4,400 処分料1kg 16.3
参考5	静岡県立磐田西高等学校外６校水泳プール浄化装置保守点検業務委託	㈲山静商会		429,000	0	429,000
参考6	静岡県立磐田農業高等学校外８校消防用設備等保守点検業務委託	静岡県消防設備保守点検業協同組合		9,251,000	0	9,251,000
参考7	静岡県立磐田南高等学校外8校警備業務委託	綜合警備保障㈱静岡支社		17,166,600	0	17,166,600
参考8	静岡県立磐田南高等学校外9校警備業務委託	綜合警備保障㈱静岡支社		13,602,600	0	13,602,600
参考9	静岡県立磐田西高等学校外４校可燃物収集運搬処分業務委託	㈱ハシモト		運搬料１回 5,885 収納容器料 1,100 処分料１kg 17.6	0	運搬料１回 5,885 収納容器料 1,100 処分料１kg 17.6
参考１０	静岡県立磐田北高等学校外４校ガスヒートポンプ点検業務委託	ヤマザキ・シー・エー㈱		3,696,000	0	3,696,000
参考１１	磐田袋井地区県立学校建築基準法第12条に基づく定期点検業務委託	㈲コーセイ産業		3,063,390	0	3,063,390
	計	11件				

関　　す　　る　　調

（令和６年度）

契約締結方法	契約期間	支出年月日	金　　額	委託業務の内容	摘　要
	6.4.5～7.3.31			袋井高校ほか３校 ネズミ及びゴキブリ等防除業務	袋井高校
	6.4.1～7.3.31			袋井高校ほか２校 電気工作物に対する保安上の点検業務	袋井高校
	6.4.1～7.3.31			袋井商業高校ほか３校 浄化槽の保守点検業務	袋井商業高校
	6.4.8～7.3.28			袋井商業高校ほか２校 可燃物の収集運搬処分業務	袋井商業高校
	6.4.12～6.11.29			磐田西高校ほか６校 プール浄化装置設備点検業務	磐田西高校
	6.4.1～7.3.31			磐田農業高校ほか８校 消防設備の保守及び機器点検・総合点検業務	磐田農業高校
	1.10.1～6.9.30			磐田南高校ほか8校 警報機器による警備業務	磐田南高校
	6.10.1～11.9.30			磐田南高校ほか8校 警報機器による警備業務	磐田南高校
	6.4.12～7.3.31			磐田西高校ほか４校 可燃物の収集運搬処分業務	磐田西高校
	6.7.23～7.1.31			磐田北高校ほか４校 ガスヒートポンプ点検業務	磐田北高校
	6.11.1～7.2.28			磐田袋井地区県立学校９校 建築基準法第12条に基づく定期点検業務	磐田農業高校

□□□□□□

委　　託　　料　　に

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額		
				当初額	変更増減額	計
			円	円	円	円
1	通学バス輸送業務委託	鯱バス㈱	253,937,640	253,836,000	0	253,836,000
2	スクールバス運行管理業務委託	大新東㈱ 静岡事業所	15,607,698	14,256,000	0	14,256,000
3	給食業務委託	㈱ミカサ	51,878,112	51,717,600	22,792	51,740,392
4	高等部棟エレベーター保守点検業務委託	日本オーチス・エレベータ㈱静岡支店	704,880	704,880	0	704,880
5	小中学部棟エレベーター保守点検業務委託	東芝エレベータ㈱静岡支店	740,520	774,840	0	774,840
6	厨房一般廃棄物収集運搬処分業務委託（厨房）	㈱袋井清掃	運搬料 1回 1,760円 可燃物処分料 1kg 16.3円 資源物処分料 1kg 14.3円	運搬料 1回 1,760円 可燃物処分料 1kg 16.3円 資源物処分料 1kg 14.3円	0	運搬料 1回 1,760円 可燃物処分料 1kg 16.3円 資源物処分料 1kg 14.3円
8	産業廃棄物収集・運搬及び処分委託 [本校]	サンワ環境整備㈱	93,500	93,500	0	93,500
9	グリストラップ清掃､産業廃棄物収集運搬業務委託	㈱袋井清掃	16,665	16,665	0	16,665
10	産業廃棄物処分委託 （厨房グリストラップ廃棄物）	㈱太洋サービス	汚泥処分 単価 27.5円/kg	汚泥処分 単価 27.5円/kg	0	汚泥処分 単価 27.5円/kg
11	産業廃棄物収集・運搬及び処分委託 [本校]	サンワ環境整備㈱	36,300	36,300	0	36,300
	合　計	11件				

関　　す　　る　　調

（令和７年度）

（令和７年８月31日現在）

契約締結方法	契約期間	支出年月日	金　　額	委託業務の内容	摘　要
一般	6.4.1～9.3.31	7.5.30 7.6.30 7.7.31 7.8.29 小計	円 (84,612,000) 7,051,000 7,051,000 7,051,000 7,051,000 28,204,000	通学バス配車・児童生徒輸送 通常便 大型バス５台 運行日数（通常） ６年度　202日 ７年度　202日 ８年度　201日	Ｒ６長期
一般	6.4.1～9.3.31	7.5.30 7.6.30 7.7.31 7.8.29 小計	(4,752,000) 396,000 396,000 396,000 396,000 1,584,000	県有スクールバス運行・管理 大型バス　１台 運行日数 ６年度　202日 ７年度　202日 ８年度　201日 管理日数 (学期始業時整備３日、定期点検４日) ６年度　７日 ７年度　７日 ８年度　７日	Ｒ６長期
一般	5.8.1～8.7.31	7.5.30 7.6.30 7.7.31 7.8.29 小計	(28,732,000) 1,438,030 1,438,030 1,438,030 1,438,030 5,752,120	給食調理及び配膳業務 ５年度　117回 ６年度　188回 ７年度　188回 ８年度　 71回	Ｒ５長期
随契	7.4.1～8.3.31	7.5.30 7.6.30 7.7.31 7.8.29 小計	52,800 52,800 52,800 52,800 211,200	昇降機保守点検 乗用、車椅子兼用１台 定員15人・積載1,000kg 定期点検　年１回 定期検査　月１回	随契２号 （不適）
随契	7.4.1～8.3.31	7.5.30 7.6.30 7.7.31 7.8.29 小計	60,940 60,940 60,940 60,940 243,760	昇降機保守点検 寝台車椅子兼用１台 定員15人・積載1,000kg 定期点検　年１回 定期検査　月１回	随契２号 （不適）
随契	7.4.8～7.3.27	7.5.30 7.6.30 7.7.31 7.8.29 小計	23,662 38,510 38,169 28,063 128,404	厨房から搬出される一般廃棄物の収集運搬及び処分業務 可燃物：紙屑、生ごみ 資源物：ﾍﾟｯﾄﾎﾞﾄﾙ、ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ製容器包装(ﾋﾞﾆｰﾙ類含む)、瓶、缶 年間　141回程度	単価契約 随契２号 （不適）
随契	7.4.21～7.7.31	7.6.16	36,300	不燃物等産業廃棄物の収集運搬処分業務 コンテナ（管理型混合廃棄物３㎥）１台	随契1号 （少額）
随契	7.7.22～7.8.29	7.8.29	16,665	厨房グリストラップの清掃及び汚泥概算290kg収集運搬	随契1号 （少額）
随契	7.7.22～7.9.24	7.8.29	7,975	厨房グリストラップの汚泥概算290kg処分	単価契約 随契1号 （少額）
随契	7.7.14～7.9.30			不燃物等産業廃棄物の収集運搬処分業務 コンテナ（管理型混合廃棄物８㎥）１台	随契1号 （少額）
			36,184,424		

□□□□□□

委　　託　　料　　に

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額		
				当初額	変更 増減額	計
参考 1	静岡県立袋井高等学校外３校防鼠防虫業務委託	㈱帝装化成 掛川営業所		円 539,000	円 0	円 539,000
参考 2	静岡県立袋井高等学校外２校自家用電気工作物保安管理業務委託	遠鉄アシスト㈱		842,160	0	842,160
参考 3	静岡県立袋井商業高等学校外３校浄化槽保守点検業務委託	㈱フクエイ		2,442,660	0	2,442,660
参考 4	静岡県立袋井商業高等学校外２校可燃物収集運搬処分業務委託	㈲小久江清掃		運搬料1回 4,400 処分料1kg 16.3	0	運搬料1回 4,400 処分料1kg 16.3
参考 5	静岡県立磐田西高等学校外６校水泳プール浄化装置保守点検業務委託	㈲山静商会		467,500	0	467,500
参考 6	静岡県立磐田農業高等学校外８校消防用設備等保守点検業務委託	静岡県消防設備保守点検業協同組合		9,322,500	95,992	9,418,492
参考 7	静岡県立磐田南高等学校外8校警備業務委託	綜合警備保障㈱静岡支社		13,602,600	0	13,602,600
参考 8	静岡県立磐田西高等学校外４校可燃物収集運搬処分業務委託	㈱ハシモト		運搬料１回 5,940 収納容器料 1,100 処分料１kg 17.6	0	運搬料１回 5,940 収納容器料 1,100 処分料１kg 17.6
参考 9	静岡県立磐田北高等学校外４校ガスヒートポンプ点検業務委託	ヤマザキ・シー・エー㈱		3,880,800	0	3,880,800
	計	9件				

関　　す　　る　　調

（令和７年度）
（令和７年８月31日時点）

契約締結方法	契約期間	支出年月日	金　　額	委託業務の内容	摘　要
	7.4.8～8.3.31			袋井高校ほか３校 ネズミ及びゴキブリ等防除業務	袋井高校
	7.4.1～8.3.31			袋井高校ほか２校 電気工作物に対する保安上の点検業務	袋井高校
	7.4.1～8.3.31			袋井商業高校ほか３校 浄化槽の保守点検業務	袋井商業高校
	7.4.7～8.3.27			袋井商業高校ほか２校 可燃物の収集運搬処分業務	袋井商業高校
	7.4.11～7.11.28			磐田西高校ほか６校 プール浄化装置設備点検業務	磐田西高校
	7.4.1～8.3.31			磐田農業高校ほか８校 消防設備の保守及び機器点検・総合点検業務	磐田農業高校
	6.10.1～11.9.30			磐田南高校ほか8校 警報機器による警備業務	磐田南高校
	7.4.11～8.3.31			磐田西高校ほか４校 可燃物の収集運搬処分業務	磐田西高校
	7.8.13～8.1.31			磐田北高校ほか４校 ガスヒートポンプ点検業務	磐田北高校

□□□□□

負 担 金 支 出 調

（令和６年度）

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	袋井地区安全運転管理協会会費	袋井地区安全運転管理協会会長	会則第24条	安全運転管理に関する啓発及び広報、調査研究等	円 24,000	６．４．26
2	甲種防火管理新規講習受講料	（一財）日本防火・防災協会理事長	通知による	施設防火管理者として必要な知識の習得	8,000	６．５．23
3	袋井保安管理協会会費	袋井保安管理協会会長	規約第19条	事業所の保安管理の推進	2,400	６．６．14
4	第47回全国特別支援学校知的障害教育校長研究大会参加費	全国特別支援学校知的障害教育校長研究大会大会実行委員長	通知による	特別支援学校知的教育の研究情報の交流、発信等	3,000	６．７．19
5	東海地区特別支援学校知的障害教育校長会会費	東海地区特別支援学校知的障害教育校長会会長	規約第９条及び附則５	特別支援学校知的障害教育の振興並びに会員の研修	5,000	６．７．31
6	安全運転管理者講習手数料	静岡県安全運転管理協会長	道路交通法第108条の２第１項第１号	安全運転管理者の資質の向上及び交通安全の実現	4,500	６．11．19
7	第14回産業振興フェアinいわた出展料	磐田商工会議所会頭	通知による	生徒作業活動の広報及び生徒作業実習受入れ企業の募集等	5,000	６．11．25
8	全国特別支援学校知的障害教育校長会会費	全国特別支援学校知的障害教育校長会会長	会則第15条	特別支援教育並びに知的障害教育の振興	15,000	６．11．25
計		８件			66,900	

□□□□□

負 担 金 支 出 調

（令和７年度）
（令和７年８月31日現在）

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	袋井地区安全運転管理協会会費	袋井地区安全運転管理協会会長	会則第24条	安全運転管理者の資質の向上及び交通安全の実現	円 24,000	７．５．12
2	甲種防火管理新規講習受講料（分校）	（一財）日本防火・防災協会理事長	通知による	施設防火管理者として必要な知識の習得	8,000	７．５．22
3	袋井保安管理協会会費	袋井保安管理協会会長	規約第19条	事業所の保安管理の推進	2,400	７．６．12
4	第48回全国特別支援学校知的障害教育校長研究大会参加費	全国特別支援学校知的障害教育校長研究大会大会実行委員長	通知による	特別支援学校知的教育の研究情報の交流、発信等	3,000	７．７．15
5	全国特別支援学校知的障害教育校長会会費	全国特別支援学校知的障害教育校長会会長	会則第15条	特別支援教育並びに知的障害教育の振興	15,000	７．７．16
6	第68回全国学校保健主事研究大会参加費	全国学校保健主事研究大会実行委員会委員長	通知による	保健主事の資質向上による学校保健・学校安全の充実	3,000	７．７．23
7	甲種防火管理新規講習受講料（本校）	（一財）日本防火・防災協会理事長	通知による	施設防火管理者として必要な知識の習得	8,000	７．７．31
8	東海地区特別支援学校知的障害教育校長会会費	東海地区特別支援学校知的障害教育校長会会長	規約第９条及び附則５	特別支援学校知的障害教育の振興並びに会員の研修	5,000	７．８．１
9	安全運転管理者講習手数料	静岡県安全運転管理協会長	道路交通法第108条の２第１項第１号	安全運転管理者の資質の向上及び交通安全の実現	5,100	７．８．27
10	第49回東海地区特別支援学校知的障害教育研究大会参加費	東海地区特別支援学校知的障害教育研究大会会長	通知による	東海地区特別支援学校知的教育の研究情報の交流、発信等	7,000	７．８．29
計		10件			80,500	

□□□□□□

様式第19号

建　　築　　工

整理番号	予算科目	工　事　名	工事箇所	当初設計金額	契約金額		
					当初額	変更増減額	計
				円	円	円	円
1	教育管理費	令和６年度静岡県立袋井特別支援学校小プール水槽塗装修繕工事	袋井市高尾地内	649,000	638,000	0	638,000
2	教育管理費	令和６年度静岡県立袋井特別支援学校屋外キュービクルトランス他更新工事	袋井市高尾地内	5,071,000	5,060,000	0	5,060,000
	合　　計		2　件	5,720,000	5,698,000	0	5,698,000

様式第19号　　□□□□□□

建　　築　　工

整理番号	予算科目	工　事　名	工事箇所	当初設計金額	契約金額		
					当初額	変更増減額	計
1	教育管理費	令和６年度静岡県立袋井特別支援学校屋外キュービクルトランス他更新工事	袋井市高尾地内	5,071,000	5,060,000	0	5,060,000
				円	円	円	円
2	教育管理費	令和７年度静岡県立袋井特別支援学校管理棟２階トイレ汚水管更新工事	袋井市高尾地内	2,739,000	2,640,000	0	2,640,000
	合　　計		1　件	2,739,000	2,640,000	0	2,640,000
				円	円	円	円
参考1	教育管理費	令和７年度［第37-Z0718-01号］袋井特別支援学校バスターミナル屋根修繕工事	袋井市高尾地内	21,681,000	19,668,000	1,232,000	20,900,000
	合　　計		1　件	21,681,000	19,668,000	1,232,000	20,900,000

事　　調

（令和６年度）

契約締結方法	受注者	着手 完成(予定) 年月日	支出済額	工事概要	公有財産台帳	摘要
随契	㈲寺田塗装工業	R6.12.10 ～ R7.3.14	円 638,000	小プール水槽塗装 高圧洗浄 旧塗膜撤去 下塗り・中塗り・上塗り	―	令達年月日 R6.10.29 支払年月日 R7.4.11 随契1号(少額)
指名	㈱小澤電業所	R6.12.26 ～ R7.3.27	2,020,000	屋外変電装置容量増設及び計器類更新 ﾄｯﾌﾟﾗﾝﾅｰ油入単相変圧器 耐圧ビニル絶縁電線 広角度計器　他	-	令達年月日 R6.12.3 支払年月日 R7.1.9(前金) 工期延長 ～R7.4.18
			2,658,000			

事　　調

（令和７年度）
（令和７年８月31日現在）

契約締結方法	受注者	着手 完成(予定) 年月日	支出済額	工事概要	公有財産台帳	摘要
指名	㈱小澤電業所	R6.12.26 ～ R7.4.18	3,040,000	屋外変電装置容量増設及び計器類更新 ﾄｯﾌﾟﾗﾝﾅｰ油入単相変圧器 耐圧ビニル絶縁電線 広角度計器　他	-	明許繰越 繰越工事調 [１/P68] 支払年月日 R7.5.23
随契	㈱三永	R7.7.16 ～ R7.9.30	円 0	管理棟２階トイレ汚水管更新 耐火二層管　100A、75A、50A 既設配管撤去、天井解体復旧等	―	令達年月日 R7.7.1 随契1号(少額)
			3,040,000			
総合 評価 (簡Ⅲ)	塚本建設㈱	R7.6.3 ～ R7.9.12	円 20,900,000	バスターミナル、送迎レーン塗装	-	袋井土木事務所
			20,900,000			

□□□□□□

繰　　越　　工

整理番号	予算科目	事業（箇所）名及び内訳	事業箇所	契約額	前年度施行支払額	繰越額
1	教育管理費	令和６年度静岡県立袋井特別支援学校屋外キュービクルトランス他更新工事 工事費	袋井特別支援学校屋外キュービクルトランス他	円 5,060,000	円 2,020,000	円 3,040,000

事　　調

（令和６年度から令和７年度へ繰越分）
（令和７年８月31日現在）

同左支出済額	支出未済額	契約締結方法	受注者（受託者）	着手 完成(予定) 年月日	繰越理由
円 3,040,000	円 0	指名	㈱小澤電業所	R6.12.26 R7.4.18	一部部品の納期の影響による工期延長

□□□□□□

公　有　財　産　調

(本　校)　　(令和6年度)

区　分	令和6年3月31日 現在		増		減		令和7年3月31日 現在		摘要
	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	
行政財産		千円 1,116,986		千円 0		千円 43,772		千円 1,073,214	
土　地	㎡ 20,708.90	602,156	㎡ 0	0	㎡ 0	0	㎡ 20,708.90	602,156	
立木竹	本 125	3,292	本 0	0	本 0	0	本 125	3,292	
建　物	㎡ 5,219.56 9,207.83	404,382	㎡ 0	0	㎡ 0	34,534	㎡ 5,219.56 9,207.83	369,848	
工作物	個 110	107,156	個 0	0	個 0	9,238	個 110	97,918	
公有財産に準ずるもの		444		0		0		444	
電　話 加入権	件 6	444	件 0	0	件 0	0	件 6	444	

（令和７年度中増減なし）

(磐田見付分校)　　(令和6年度)

区　分	令和6年3月31日 現在		増		減		令和7年3月31日 現在		摘要
	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	
行政財産		千円 117,556		千円 0		千円 6,145		千円 111,411	
立木竹	本 18	179	本 0	0	本 0	0	本 18	179	
建　物	㎡ 927.86 739.25	105,651	㎡ 0	0	㎡ 0	5,196	㎡ 927.86 739.25	100,455	
工作物	個 14	11,726	個 0	0	個 0	949	個 14	10,777	
公有財産に準ずるもの		124		0		0		124	
電　話 加入権	件 2	124	件 0	0	件 0	0	件 2	124	

（令和７年度中増減なし）

□□□□□□

借　地　借　家　等　調

（令和７年８月31日現在）

整理番号	区分	種別	所在地	地目 台帳	地目 現況	数量又は面積	借料 単価	借料 年額	契約期間	所有者又は契約者氏名	用途
1	土地	学校敷地	袋井市高尾1829-1地先	公衆用道路	雑種地	㎡ 1.00	円 ―	円 免除	5.4.1～10.3.31	袋井市長	学校案内板設置
2	土地	学校敷地	袋井市高尾1068-2番地先	公衆用道路	雑種地	㎡ 1.00	―	免除	7.4.1～12.3.31	袋井市長	学校案内板設置
3	土地	学校敷地	袋井市浅羽3464番33	畑	畑	㎡ 801.00	―	無償	7.4.1～8.3.31	個人	学校農園
4	土地	学校敷地	磐田市見付2031番地2	宅地	学校敷地	㎡ 3,500.21	―	―	7.4.1～10.3.31	静岡県立磐田北高等学校長	校舎敷地
5	土地	学校敷地	磐田市見付2031番地2	宅地	学校敷地	㎡ 0.19	―	―	7.4.1～10.3.31	静岡県立磐田北高等学校長	校内案内板設置
6	土地	学校敷地	袋井市高尾1444–2他	田	田	㎡ 210.00	―	免除	7.4.1～8.3.31	袋井市長	作業学習用地
	小計					㎡ 4,513.4		0			
7	土地	水路敷地	袋井市高尾字谷ノ口1519-2地先（左岸）	水路	雑種地	m 8.8	―	免除	H31.4.1～11.3.31	河川管理者静岡県知事	排水管 7.96㎡
8	土地	水路敷地	袋井市高尾字谷ノ口2753-190地先	水路	水路	㎡ 11.90	―	免除	5.4.1～8.3.31	袋井市長	通用門進入路
9	土地	水路敷地	袋井市高尾2753-370番地先	水路	水路	㎡ 15.86	―	免除	5.4.1～8.3.31	袋井市長	正門進入路
	小計					8.8m 27.76㎡		0			
10	建物	事務所建	袋井市高尾2753-1	鉄骨造２階建		㎡ 240.19 456.98	月額 258,500	3,102,000	7.4.1～12.3.31	大和リース㈱静岡支店	高等部仮設校舎
	小計					㎡ 240.19 456.98		3,102,000			
11	工作物	囲障	磐田市見付2031番地2	ネットフェンス		㎡ 0.12	―	―	7.4.1～10.3.31	静岡県立磐田北高等学校長	運動場等案内板設置
	小計					㎡ 0.12		0			
	計							3,102,000			

※　契約期間年号に表記がないものは、令和とする。

□□□□□□

事務機器等の債務負担行為

区分	事業名又は契約名	内容	契約額	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
			円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円
債務負担行為	仮設校舎賃貸借（教室棟）	高等部仮設校舎(456.98㎡)の賃貸(契約日)H17.5.2	104,265,000	29,967,000	3,402,000	3,402,000	3,402,000	3,402,000	3,150,000	3,150,000	3,150,000	3,150,000	3,150,000

（令和７年度）
（令和７年８月31日現在）

区分	事業名又は契約名	内容	契約額	（契約額の年度別内訳）								
				３年度	４年度	５年度	６年度	７年度	８年度	９年度	10年度	11年度
			円	円	円	円	円	円	円	円	円	円
長期継続契約	給食業務委託	給食調理及び配膳業務(契約日)R5.7.28（変更）R7.4.10	51,740,392			11,492,800	17,239,200	17,256,360	5,752,032			
	スクールバス運行管理業務委託	県有ｽｸｰﾙﾊﾞｽ１台の運行管理業務委託(契約日)R6.4.1	14,256,000				4,752,000	4,752,000	4,752,000			
	通学バス輸送業務委託	通学バス５台による輸送業務委託(契約日)R6.4.1	253,836,000				84,612,000	84,612,000	84,612,000			
	電子複写機賃貸借	電子複写機の賃貸借(契約日)R3.4.1	5,606,348	1,084,248	1,130,525	1,130,525	1,130,525	1,130,525				

又は長期継続契約に係る調

（令和７年度）
（令和７年８月31日現在）

（契約額の年度別内訳）

27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	２年度	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度	８年度	９年度	10年度	11年度
円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円
2,916,000	2,916,000	2,916,000	2,916,000	2,916,000	2,970,000	2,970,000	2,970,000	2,970,000	2,970,000	3,102,000	3,102,000	3,102,000	3,102,000	3,102,000

□□□□□□

行政財産貸付・使用許可調

（令和７年８月31日現在）

整理番号	区分	種別	所在地	地目		数量又は面積	貸付料又は使用料		貸付又は使用許可期間	貸付又は使用許可を受けた者の氏名	貸付・使用許可目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	学校敷地	袋井市高尾2753-1	学校敷地	学校敷地	㎡ 15.90	－	円 免除	7. 4.1 ～ 12.3.31	袋井市長	本校 防災倉庫
2	建物	事務所建	袋井市高尾2753-1	ＲＣ造２Ｆ		㎡ 0.18	－	免除	4.4.1 ～ 9.3.31	袋井市長	本校 地域防災無線機
3	工作物	囲障	袋井市高尾2753-1	金網フェンスＨ＝1.5m		㎡ 1.52	－	免除	3.12.13 ～ 8.3.31	袋井市長	本校 避難所案内看板
合計								0			

様式第29号

備 品・図 書 調

(令和 6年度)

区 分	令和 6年3月31日現在	増		減		令和 7年3月31日現在
		数 量	購入価格(円)	数 量	売却価格(円)	
01-01 机類	27	(0) 0	0	(0) 0	0	27
01-02 台類	4	(0) 1	276,100	(0) 0	0	5
01-03 いす類	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
01-04 収納保管庫類	74	(0) 0	0	(0) 0	0	74
01-05 印刷機器類	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
01-07 書類整理器具類	8	(0) 0	0	(0) 1	0	7
01-10 印判類	5	(0) 0	0	(0) 0	0	5
01-12 寝具類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
01-13 厨房器具類	42	(0) 0	0	(0) 1	3,080	41
01-14 冷暖房器具類	32	(0) 1	462,000	(0) 1	0	32
01-18 パーテーション	8	(0) 0	0	(0) 0	0	8
01-19 掲示板・黒板	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
01-99 その他の庁用器具類	26	(0) 0	0	(0) 0	0	26
02-01 情報処理機器類	361	(0) 4	425,095	(0) 1	0	364
02-02 情報伝達機器類	21	(0) 0	0	(0) 0	0	21
02-03 再生機器類	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
03-01 撮影機器類	4	(0) 0	0	(0) 0	0	4
03-03 視覚用再生等機器類	7	(0) 4	983,400	(0) 0	0	11
04-01 診療・診断用機器類	3	(0) 0	0	(0) 1	0	2

ZMB0040
ZMRB0040

様式第29号

備 品・図 書 調

(令和 6年度)

区 分	令和 6年3月31日現在	増		減		令和 7年3月31日現在
		数 量	購入価格(円)	数 量	売却価格(円)	
04-02 衛生検査用機器類	2	(0) 0	0	(0) 0	0	2
04-05 機能回復訓練機器類	2	(0) 0	0	(0) 0	0	2
04-99 その他の医療衛生機器類	12	(0) 0	0	(0) 1	0	11
05-04 分析化学機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
05-10 身体測定用機器類	2	(0) 0	0	(0) 0	0	2
06-02 金属加工用機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
06-04 電気電子機器類	14	(4) 4	0	(0) 0	0	18
06-09 木工用機器類	12	(0) 0	0	(0) 0	0	12
07-01 農産用機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
08-01 車両類	2	(0) 0	0	(0) 0	0	2
10-06 家庭科用器具類	4	(0) 0	0	(0) 0	0	4
10-07 音楽用器具類	27	(0) 0	0	(0) 0	0	27
10-08 芸術用器具類	13	(0) 0	0	(0) 0	0	13
10-09 演劇用器具類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
10-12 体育保健用器具類	12	(0) 0	0	(0) 0	0	12
10-99 その他の教育用器具類	22	(0) 0	0	(0) 1	8,712	21
12-01 雑機器	1	(0) 1	141,900	(0) 0	0	2
計	764	(4) 15	2,288,495	(0) 7	11,792	772

ZMB0040
ZMRB0040

様式第29号

備 品・図 書 調

(令和 7年度)

区 分	令和 7年 3月31日 現在	増		減		令和 7年 8月31日 現在
		数 量	購 入 価 格 (円)	数 量	売 却 価 格 (円)	
01-01 机類	27	(0) 0	0	(0) 0	0	27
01-02 台類	5	(0) 0	0	(0) 0	0	5
01-03 いす類	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
01-04 収納保管庫類	74	(0) 0	0	(0) 0	0	74
01-05 印刷機器類	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
01-07 書類整理器具類	7	(0) 0	0	(0) 0	0	7
01-10 印判類	5	(0) 0	0	(0) 0	0	5
01-12 寝具類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
01-13 厨房器具類	41	(0) 0	0	(0) 0	0	41
01-14 冷暖房器具類	32	(0) 1	0	(0) 0	0	33
01-18 パーテーション	8	(0) 0	0	(0) 0	0	8
01-19 掲示板・黒板	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
01-99 その他の庁用器具類	26	(0) 0	0	(0) 0	0	26
02-01 情報処理機器類	364	(0) 0	0	(0) 0	0	364
02-02 情報伝達機器類	21	(0) 0	0	(0) 0	0	21
02-03 再生機器類	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
03-01 撮影機器類	4	(0) 0	0	(0) 0	0	4
03-03 視覚用再生等機器類	11	(0) 0	0	(0) 0	0	11
04-01 診療・診断用機器類	2	(0) 0	0	(0) 0	0	2

ZMB0040
ZMRB0040

様式第29号

備 品・図 書 調

(令和 7年度)

区 分	令和 7年 3月31日 現在	増		減		令和 7年 8月31日 現在
		数 量	購 入 価 格 (円)	数 量	売 却 価 格 (円)	
04-02 衛生検査用機器類	2	(0) 1	158,345	(0) 0	0	3
04-05 機能回復訓練機器類	2	(0) 0	0	(0) 0	0	2
04-99 その他の医療衛生機器類	11	(0) 0	0	(0) 0	0	11
05-04 分析化学機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
05-10 身体測定用機器類	2	(0) 0	0	(0) 0	0	2
06-02 金属加工用機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
06-04 電気電子機器類	18	(1) 1	0	(0) 0	0	19
06-09 木工用機器類	12	(0) 0	0	(0) 0	0	12
07-01 農産用機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
08-01 車両類	2	(0) 0	0	(0) 0	0	2
10-06 家庭科用器具類	4	(0) 0	0	(0) 0	0	4
10-07 音楽用器具類	27	(0) 0	0	(0) 0	0	27
10-08 芸術用器具類	13	(0) 0	0	(0) 0	0	13
10-09 演劇用器具類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
10-12 体育保健用器具類	12	(0) 0	0	(0) 0	0	12
10-99 その他の教育用器具類	21	(0) 0	0	(0) 0	0	21
12-01 雑機器	2	(0) 0	0	(0) 0	0	2
計	772	(1) 3	158,345	(0) 0	0	775

ZMB0040
ZMRB0040

□□□□□□

主　要　備　品　調

（令和７年８月31日現在）

整理番号	区分 大・中	区分 小	品名・規格	利用状況	購入年月	購入金額 円
1	01- 13	調理器具	スチームコンベクションオーブン ｺﾒｯﾄｶﾄｳ CSWH-GW-201-1	給食調理用 年間170日	R5．3	5,962,000
2	10- 99	その他の教育用器具	複合遊具 塔屋+網階段+滑り台+螺旋棒	小学部授業他 年間200日	R3．6	4,257,000
3	5- 4	加熱(冷却)蒸発装置	真空冷却機 三浦工業　ＣＭＪ－２０ＱＥ	給食調理用 年間170日	H30．3	3,121,200
4	1-13	食品食器洗浄機	食器洗浄機 日本洗浄機　SDL-340GL	給食調理用 年間190日	R2．3	2,398,000
5	6- 9	木工用機械	自動一面カンナ盤 マキタ　ＬＫ５０１ＥＢ	作業学習授業用 週5ｈ使用 年間70日	H26．3	2,234,400
6	2- 2	放送装置	放送装置 ﾋﾞﾃﾞｵ調整卓 松下 WL618AV	校内放送用 年間200日	H3.12	1,751,000
7	10- 8	その他の芸術用器具	電気陶芸窯 MARUNI　OEL-15-SOF3D	作業学習授業用 週5ｈ使用 年間70日	H8．3	1,545,000
8	2- 1	パーソナルコンピュータ(一式)	ﾀﾌﾞﾚｯﾄPC(ARROWS)10台、無線LANAP ｿﾌﾄｳｪｱ、電子黒板他	授業用 年間200日	H29．1	1,512,000
9	2- 1	パーソナルコンピュータ(一式)	ICT環境整備機器(NAS:1、PC:9、Pri:1、ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾀ:1、ｽｸﾘｰﾝ:2、無線LANAP:1)	授業用 年間200日	H30．3	1,449,900
10	6- 9	木工用機械	手押しカンナ盤(集塵ﾎｯﾊﾟｰ付) マキタ　ＬＪ３０１ＥＢ	作業学習授業用 週5ｈ使用 年間70日	H26．3	1,428,000
11	3- 3	プロジェクター	プロジェクター　12台 ﾏｸｾﾙ　MC-BW302J	授業用 年間200日	R3．3	1,402,711
12	6- 9	木工用機械	横切り盤 石津製作所　ISC－1300	作業学習授業用 週5ｈ使用 年間70日	H23.11	1,181,250
13	10- 8	その他の芸術用器具	電気陶芸窯 MARUNI　OEL-15S 200V-15kw	作業学習授業用 週5ｈ使用 年間70日	H3．1	1,178,320
14	10- 7	鍵盤楽器	グランドピアノ ヤマハ　Ｇ５Ｅ	音楽授業・行事用 週4ｈ使用 年間70日	H3．2	1,174,200
15	2- 1	その他の情報処理機器	校内ＬＡＮサーバー １式	校内ＬＡＮ用 常時使用（年間365日）	H13．3	1,172,850
16	01-13	調理器具	ステンレス製ガス回転釜 服部工業 GHSL4-32HN-SS	給食調理用 年間180日	R5．3	1,144,000
17	01-13	調理器具	ステンレス製ガス回転釜 服部工業 GHSL4-32HN-SS	給食調理用 年間180日	R5．3	1,144,000
18	1-99	その他の庁用器具	校旗 綴織	各種行事用 年間10日	H2.12	1,143,300
19	3- 1	その他の撮影機器	防犯カメラ ｶﾒﾗ4台、ﾓﾆﾀｰ1台、ﾚｺｰﾀﾞｰ1台 他	防犯用 常時使用（年間365日）	R1.12	1,075,580
20	1- 4	下駄箱	下駄箱 3015×800×2200 10列6段	児童・生徒用 常時使用（年間365日）	H2．8	1,044,420

□□□□□□

生 産 物 受 払 調

（本　校）　　（令和7年8月31日現在）

区分＼品名（単位）			青果（kg）				革工芸品（個）			
			5年度 a	6年度 b	7年8月31日現在	差 b－a	5年度 a	6年度 b	7年8月31日現在	差 b－a
重さ(kg)、数量(個) (ｱ)										
受高	前年度繰越高		0.00	0.00	0.00	0.00	0	0	0	0
	本年度生産高 (ｲ)		100.00	25.70	15.10	△ 74.30	346	210	0	△ 136
	計		100.00	25.70	15.10	△ 74.30	346	210	0	△ 136
単位数量 (ｲ/ｱ)										
同前年比（%）（b－a）／a×１００						△ 74.3				△ 39.3
払高	売払数量		100.00	25.70	15.10	△ 74.30	346	210	0	△ 136
	売払金額		16,800	3,850	5,500	△ 12,950	82,300	74,300	0	△ 8,000
	非売品数量	分類換	0.00	0.00	0.00	0.00	0	0	0	0
		管理換その他	0.00	0.00	0.00	0.00	0	0	0	0
	計		100.00	25.70	15.10	△ 74.30	346	210	0	△ 136
残高又は繰越数量			0.00	0.00	0.00	0.00	0	0	0	0
摘要										

区分＼品名（単位）			紙工芸品（個）				手芸製品（個）			
			5年度 a	6年度 b	7年8月31日現在	差 b－a	5年度 a	6年度 b	7年8月31日現在	差 b－a
重さ(kg)、数量(個) (ｱ)										
受高	前年度繰越高		0	0	0	0	0	0	0	0
	本年度生産高 (ｲ)		358	317	0	△ 41	449	641	0	192
	計		358	317	0	△ 41	449	641	0	192
単位数量 (ｲ/ｱ)										
同前年比（%）（b－a）／a×１００						△ 11.5				42.8
払高	売払数量		358	317	0	△ 41	449	641	0	192
	売払金額		72,600	81,350	0	8,750	165,650	210,100	0	44,450
	非売品数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換その他	0	0	0	0	0	0	0	0
	計		358	317	0	△ 41	449	641	0	192
残高又は繰越数量			0	0	0	0	0	0	0	0
摘要										

□□□□□□

生　産　物　受　払　調

（本　校）　　（令和7年8月31日現在）

区分＼品名（単位）			木工製品（個）				陶芸品（個）			
			5年度 a	6年度 b	7年8月31日現在	差 b－a	5年度 a	6年度 b	7年8月31日現在	差 b－a
重さ(kg)、数量(個) (ｱ)										
受高	前年度繰越高		0	0	0	0	0	0	0	0
	本年度生産高 (ｲ)		333	409	0	76	885	714	0	△ 171
	計		333	409	0	76	885	714	0	△ 171
単位数量 (ｲ/ｱ)										
同前年比（%）（b－a）／a×１００						22.8				△ 19.3
払高	売払数量		333	409	0	76	885	714	0	△ 171
	売払金額		120,250	122,900	0	2,650	159,950	153,300	0	△ 6,650
	非売品数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換その他	0	0	0	0	0	0	0	0
	計		333	409	0	76	885	714	0	△ 171
残高又は繰越数量			0	0	0	0	0	0	0	0
摘要										

区分＼品名（単位）			計			
			5年度 a	6年度 b	7年8月31日現在	差 b－a
重さ(kg)、数量(個) (ｱ)						
受高	前年度繰越高					
	本年度生産高 (ｲ)					
	計					
単位数量 (ｲ/ｱ)						
同前年比（%）（b－a）／a×１００						
払高	売払数量					
	売払金額		617,550	645,800	5,500	28,250
	非売品数量	分類換				
		管理換その他				
	計					
残高又は繰越数量						
摘要						

□□□□□□

生 産 物 受 払 調

（磐田見付分校）　　（令和7年8月31日現在）

区分＼品名（単位）			革工芸品（個）				木工製品（個）			
			5年度 a	6年度 b	7年8月31日現在	差 b－a	5年度 a	6年度 b	7年8月31日現在	差 b－a
数量(個) (ｱ)										
受高	前年度繰越高		0	0	0	0	0	0	0	0
	本年度生産高 (ｲ)		270	223	92	△ 47	120	83	7	△ 37
	計		270	223	92	△ 47	120	83	7	△ 37
単位数量 (ｲ/ｱ)										
同前年比（%）（b－a）／a×１００						△ 17.4				△ 30.8
払高	売払数量		270	223	92	△ 47	120	83	7	△ 37
	売払金額		168,500	109,500	50,600	△ 59,000	112,000	61,650	13,200	△ 50,350
	非売品数量	分類換	0	0	0	0	0	0	0	0
		管理換その他	0	0	0	0	0	0	0	0
	計		270	223	92	△ 47	120	83	7	△ 37
残高又は繰越数量			0	0	0	0	0	0	0	0
摘要										

区分＼品名（単位）			手芸製品（個）				縫製品（個）			
			5年度 a	6年度 b	7年8月31日現在	差 b－a	5年度 a	6年度 b	7年8月31日現在	差 b－a
数量(個) (ｱ)										
受高	前年度繰越高		0	0	0	0	0	0	0	0
	本年度生産高 (ｲ)		185	132	55	△ 53	205	201	30	△ 4
	計		185	132	55	△ 53	205	201	30	△ 4
単位数量 (ｲ/ｱ)										
同前年比（%）（b－a）／a×１００						－				△ 2.0
払高	売払数量		183	132	55	△ 51	205	201	30	△ 4
	売払金額		62,050	44,500	20,600	△ 17,550	144,900	139,400	19,600	△ 5,500
	非売品数量	分類換	2	0	0	△ 2	0	0	0	0
		管理換その他	0	0	0	0	0	0	0	0
	計		185	132	55	△ 53	205	201	30	△ 4
残高又は繰越数量			0	0	0	0	0	0	0	0
摘要										

□□□□□□

生　産　物　受　払　調

（磐田見付分校）　　（令和7年8月31日現在）

区分 ＼ 品名（単位）			計			
			5年度 a	6年度 b	7年8月31日現在	差 b－a
重さ(kg)、数量(個) (ｱ)						
受高	前年度繰越高					
	本年度生産高 (ｲ)					
	計					
単位数量 (ｲ/ｱ)						
同前年比（%）（b－a）／a×１００						
払高	売払数量					
	売払金額		487,450	355,050	104,000	△ 132,400
	非売品数量	分類換				
		管理換 その他				
	計					
残高又は繰越数量						
摘要						

事務事業及び予算の執行実績（別冊）

（令和６年度分「一部、令和７年度分を含む」）

静岡県立袋井特別支援学校

目　　次

□□□□

職　　員　　調　　（本校）

（令和 7年8月31日現在）

整理番号	職　　名	氏　　名	事 務 分 担	住　　所	勤務年数	摘　　要
1	校　　長	鈴 木　滋 夫	総括	□□□	□ 年 □ 月	
2	副 校 長	木 野　かおり	総括補助	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
3	教　　頭	上 原　弘 樹	総括補助	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
4	事 務 長	山　内　　勉	事務総括	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
5	教　　諭	青 谷　麻 美	小1	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
6	教　　諭	赤 堀　公 耶	中2	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
7	教　　諭	秋 澤　香 織	小6主任	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
8	教　　諭	秋 山　彩 佳	中3主任	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
9	教　　諭	浅　井　　岬	中3	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
10	教　　諭	清 水　穂乃加		□□□	□ 年 □ 月	□□□□
11	教　　諭	阿 部　信 輔	中2	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
12	教　　諭	新 井　宏 美	中1主任	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
13	教　　諭	飯 田　知奈美	訪問	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
14	教　　諭	石 津　公 稔	中3	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
15	教　　諭	和 泉　明 子	中 部主事	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
16	教　　諭	井 筒　由梨奈		□□□	□ 年 □ 月	□□□□
17	教　　諭	伊 藤　晴 美	小4	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
18	教　　諭	伊 藤　光 恵	高肢主任	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
19	教　　諭	今 田　康 貴	小肢3･4	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
20	教　　諭	潮 木　奈 緒		□□□	□ 年 □ 月	□□□□
21	教　　諭	内 山　友 介	小肢6	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
22	教　　諭	内　海　　充	高3	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
23	教　　諭	大　石　　栞		□□□	□ 年 □ 月	□□□□
24	教　　諭	大 石　ひかる		□□□	□ 年 □ 月	□□□□
25	教　　諭	太 田　明 莉		□□□	□ 年 □ 月	□□□□
26	教　　諭	大 場　灯 理		□□□	□ 年 □ 月	□□□□
27	教　　諭	大 場　研 資	中肢主任	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
28	教　　諭	大 場　遼 子		□□□	□ 年 □ 月	□□□□
29	教　　諭	大 橋　柚 乃	小5	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
30	教　　諭	大 山　麻友子	高3	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
31	教　　諭	岡 本　智恵子	中2	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
32	教　　諭	岡　本　温 巳	小5主任	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
33	教　　諭	小　川　　麗	中3	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
34	教　　諭	小 木　友 樹	小6	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
35	教　　諭	小 田　彩矢佳	小肢3･4	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
36	教　　諭	片 岡　美 紗	中2	□□□	□ 年 □ 月	□□□□

□□□□

職　　員　　調　　（本校）

（令和 7年8月31日現在）

整理番号	職　　名	氏　　名	事 務 分 担	住　　所	勤務年数	摘　　要
37	教　　諭	片 田　里 奈	小2	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
38	教　　諭	片 野　玲 子	小3	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
39	教　　諭	片 山　留 理 子	小4	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
40	教　　諭	勝 又　遼 子		□□□	□ 年 □ 月	□□□□
41	教　　諭	加 藤　由 有 希	高1	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
42	教　　諭	河 合　春 奈	小3主任	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
43	教　　諭	川 村　清 子	小肢3･4	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
44	教　　諭	河 村　早 紀	中1	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
45	教　　諭	川 村　知 夢	小4主任	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
46	教　　諭	菊 田　る り 子		□□□	□ 年 □ 月	□□□□
47	教　　諭	北 本　佳 代 子	高1主任	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
48	教　　諭	木 津 谷　百 恵	高1	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
49	教　　諭	木 下　真 由 香	高2	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
50	教　　諭	金 原　夏 希	小5	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
51	教　　諭	久 島　由 紀 恵	訪問主任	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
52	教　　諭	栗　田　恵	高級外	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
53	教　　諭	小 島　秀 子	小1	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
54	教　　諭	小 島　佑 太	高2	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
55	教　　諭	齋 藤　雅 志	小6	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
56	教　　諭	匂 坂　瑠 希	中1	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
57	教　　諭	佐 口　佳 奈 美	小2主任	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
58	教　　諭	桜 井　理 恵	小1	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
59	教　　諭	佐 藤　慎 馬	訪問	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
60	教　　諭	佐 野　智 乃	小1	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
61	教　　諭	塩 原　莉 那	中1	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
62	教　　諭	柴 田　夕 湖	小 部主事	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
63	教　　諭	白 栁　恵 美	人財サポート	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
64	教　　諭	陣 場　文 洋	小1	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
65	教　　諭	杉 村　航 平	中3	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
66	教　　諭	杉 村　多 美 子	高3主任	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
67	教　　諭	杉 浦　若 奈	小肢3･4	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
68	教　　諭	杉 山　真 奈	高3	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
69	教　　諭	鈴 鹿　大 樹	小6	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
70	教　　諭	鈴 木　碧 海	小6	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
71	教　　諭	鈴 木　健 一	中3	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
72	教　　諭	鈴 木　達 也	小4	□□□	□ 年 □ 月	□□□□

□□□□

職　　員　　調　　（本校）

（令和 7年8月31日現在）

整理番号	職　　名	氏　　名	事 務 分 担	住　　所	勤務年数	摘　　要
73	教　　諭	鈴 木　朋 子	小肢1･2	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
74	教　　諭	鈴 木　真 希	小5	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
75	教　　諭	鈴 木　みこと	高2	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
76	教　　諭	鈴 木　友 紀	小2	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
77	教　　諭	砂 田　吏 絵	高3	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
78	教　　諭	髙 橋　典 子	高肢級外	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
79	教　　諭	高 橋　英 里	高3	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
80	教　　諭	竹 田　真 也	小3	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
81	教　　諭	竹 村　美 穂	高2	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
82	教　　諭	田　中　藍	小2	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
83	教　　諭	玉 城　麻 依	高1	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
84	教　　諭	築 城　優 治	高2	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
85	教　　諭	土 田　晃 平	小2	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
86	教　　諭	角 替　泰 章	中肢1･2･3	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
87	教　　諭	津 原　亜 沙 美	小2	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
88	教　　諭	寺 田　知 子	高1	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
89	教　　諭	寺 田　侑 二 郎	高1	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
90	教　　諭	冨 岡　由 美		□□□	□ 年 □ 月	□□□□
91	教　　諭	友 田　史 織	小5	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
92	教　　諭	内 藤　元 美	高3	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
93	教　　諭	中 川　拓 也		□□□	□ 年 □ 月	□□□□
94	教　　諭	中 曽　利 菜	中肢1･2･3	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
95	教　　諭	中 村　友 利 恵	高1	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
96	教　　諭	西　　愛　美	小3	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
97	教　　諭	萩 田　正 博	高肢1･2	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
98	教　　諭	萩 田　悠 華 子	小6	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
99	教　　諭	畠 中　春 来	小3	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
100	教　　諭	平 賀　大 地	中1	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
101	教　　諭	平 田　美 優	小1	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
102	教　　諭	藤 澤　耀 大	小5	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
103	教　　諭	藤 田　了 太	中2	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
104	教　　諭	古 木　将 裕	小5	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
105	教　　諭	古 谷　瑠 音	中3	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
106	教　　諭	祝　　一　真	高級外	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
107	教　　諭	細 田　まゆみ	小級外	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
108	教　　諭	堀 池　宜 史	高2	□□□	□ 年 □ 月	□□□□

□□□□

職　　員　　調　　（本校）

（令和 7年8月31日現在）

整理番号	職　　名	氏　　名	事 務 分 担	住　　所	勤務年数	摘　　要
109	教　　諭	堀 内　彰 人	高1	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
110	教　　諭	堀 内　光 太 郎	高3	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
111	教　　諭	前 田　小 雪	小6	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
112	教　　諭	松 浦　弘 承	中3	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
113	教　　諭	松　浦　　恵	小肢級外	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
114	教　　諭	松 下　千 香	小1主任	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
115	教　　諭	松 田　宏 美	中1	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
116	教　　諭	松 永　充 孝	小5	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
117	教　　諭	松 本　祥 一	中2	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
118	教　　諭	松 山　恵 梨		□□□	□ 年 □ 月	□□□□
119	教　　諭	三　輪　　憧	高2	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
120	教　　諭	村 井　海 帆		□□□	□ 年 □ 月	□□□□
121	教　　諭	村 松　謙 輝	小1	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
122	教　　諭	村　松　　武	小5	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
123	教　　諭	村 松　祐 典	高級外	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
124	教　　諭	望 月　里 紗	小1	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
125	教　　諭	森　　文　　音	中肢1･2･3	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
126	教　　諭	森　く る み	小肢5	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
127	教　　諭	森　　祐　　輔	小6	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
128	教　　諭	八 木　咲 乃	小肢1･2	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
129	教　　諭	矢 島　二 郎	小肢5	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
130	教　　諭	安 井　大 輔	高 部主事	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
131	教　　諭	山 下　佳 世 子	高2主任	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
132	教　　諭	山 田　桃 子	高3	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
133	教　　諭	山 田　祥 健	小2	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
134	教　　諭	横 山　豊 彦		□□□	□ 年 □ 月	□□□□
135	教　　諭	良 知　優 香	高1	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
136	教　　諭	渡 邊　暁 子	中級外	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
137	教　　諭	渡 邉　和 綱	小肢主任	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
138	教　　諭	渡 部　孝 子	小肢6	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
139	教　　諭	渡 邊　みはる	小6	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
140	教　　諭	藁 科　友 佳	小級外	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
141	養護教諭	熊 切　展 子	養護	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
142	養護教諭	古 山　佑 梨	養護	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
143	栄養教諭	櫻 井　綾 乃		□□□	□ 年 □ 月	□□□□

□□□□

職　　員　　調　　（本校）

（令和 7年8月31日現在）

整理番号	職　　名	氏　　名	事 務 分 担	住　　所	勤務年数	摘　　要
144	主　　査	深 澤　昌 代	庶務･会計	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
145	主　　査	渥 美　好 仁	庶務･会計	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
146	主　　任	石 井　涼 平	管財･会計	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
147	技 能 長	鈴 木　俊 夫	用務	□□□	□ 年 □ 月	
				平均年数	□ 年 □ 月	

付　　記

整理番号	職　　名	氏　　名	事 務 分 担	住　　所	勤務年数	摘　　要
1	教 諭（任）	尾　込　　萌	小2	□□□	□　年 □ 月	□□□□
2	教 諭（任）	尾 﨑　浩　子	小3	□□□	□　年 □ 月	□□□□
3	教 諭（任）	工 藤　晴　美	中3	□□□	□　年 □ 月	□□□□
4	教 諭（任）	齊 藤　隼　右	中2	□□□	□　年 □ 月	□□□□
5	教 諭（任）	佐 藤　久 美 子	高1	□□□	□　年 □ 月	□□□□
6	教 諭（任）	鈴 木　綾　子	中2	□□□	□　年 □ 月	□□□□
7	教 諭（任）	髙 桑　道　代	中1	□□□	□　年 □ 月	□□□□
8	教 諭（任）	髙 塚　二　起	高1	□□□	□　年 □ 月	□□□□
9	教 諭（任）	土 本　奈 津 子	小2	□□□	□　年 □ 月	□□□□
10	教 諭（任）	本 間　将　恭	中肢1･2･3	□□□	□　年 □ 月	□□□□
11	教 諭（臨）	伊 藤　順　子	小5	□□□	□　年 □ 月	□□□□
12	教 諭（臨）	川　上　　南	小5	□□□	□　年 □ 月	□□□□
13	教 諭（臨）	久 保　京　子	小肢1･2	□□□	□　年 □ 月	□□□□
14	教 諭（臨）	小 林　颯 太 郎	小4	□□□	□　年 □ 月	□□□□
15	教 諭（臨）	小　山　　優	高1	□□□	□　年 □ 月	□□□□
16	教 諭（臨）	島 田　幸　輝	高3	□□□	□　年 □ 月	□□□□
17	教 諭（臨）	杉 山　夏　生	高3	□□□	□　年 □ 月	□□□□
18	教 諭（臨）	髙 杉　直　樹	高3	□□□	□　年 □ 月	□□□□
19	教 諭（臨）	德 田　瑠　璃	中3	□□□	□　年 □ 月	□□□□
20	教 諭（臨）	名 倉　あ ゆ み	小4	□□□	□　年 □ 月	□□□□
21	教 諭（臨）	袴 田　有　美	中2	□□□	□　年 □ 月	□□□□
22	教 諭（臨）	松 田　展　子	高2	□□□	□　年 □ 月	□□□□
23	教 諭（臨）	村 松　奈　奈	高2	□□□	□　年 □ 月	□□□□
24	教 諭（臨）	栁　　麻　美	小肢5	□□□	□　年 □ 月	□□□□
25	栄養士(臨)	白 岩　花　江		□□□	□　年 □ 月	□□□□
26	医療的ケア看護職員	稲　垣　友　美		□□□	□　年 □ 月	□□□□
27	医療的ケア看護職員	大　地　直　美		□□□	□　年 □ 月	□□□□
28	医療的ケア看護職員	山　本　瑞　歩		□□□	□　年 □ 月	□□□□
29	医療的ケア看護職員	平　沙　誉　子		□□□	□　年 □ 月	□□□□
30	医療的ケア看護職員	佐 藤　尚　子		□□□	□　年 □ 月	□□□□
31	非常勤講師	小 島　真 理 子	実技軽減	□□□	□　年 □ 月	□□□□
32	非常勤講師	土 井　あ ず さ	社会人活用 ｸﾗﾌﾄ工芸	□□□	□　年 □ 月	
33	非常勤講師	永 田　政　司	社会人活用 革工芸	□□□	□　年 □ 月	
34	就労促進専門員	萬 谷　英　子		□□□	□　年 □ 月	
35	非常勤嘱託員	堀 内　克　洋	事務	□□□	□　年 □ 月	
36	非常勤嘱託員	吉 川　あ つ 子	指導員	□□□	□　年 □ 月	□□□□

付　　記

整理番号	職　　名	氏　　名	事務分担	住　　所	勤務年数	摘　　要
37	非常勤嘱託員	杉山　美幸	実習支援員	□□□	□　年　□　月	
38	非常勤労務職員	古宮　いづみ	用務	□□□	□　年　□　月	
39	非常勤労務職員	勝亦　惠子	校内介助	□□□	□　年　□　月	
40	非常勤労務職員	亀田　美智子	スクールバス介助	□□□	□　年　□　月	
41	非常勤労務職員	宮澤　淳子	スクールバス介助	□□□	□　年　□　月	
42	非常勤労務職員	桐山　洋美	スクールバス介助	□□□	□　年　□　月	
43	非常勤労務職員	中　村　弘	スクールバス介助	□□□	□　年　□　月	
44	非常勤労務職員	松本　令子	スクールバス介助	□□□	□　年　□　月	
45	非常勤労務職員	森　順男	スクールバス介助	□□□	□　年　□　月	
46	学校医 健康管理医	諸井　進一郎	内科	□□□	□　年　□　月	
47	学校医	新木　五月	耳鼻科	□□□	□　年　□　月	
48	学校医	栗田　邦雄	眼科	□□□	□　年　□　月	
49	学校歯科医	宮本　錦明		□□□	□　年　□　月	
50	学校薬剤師	木野　明子		□□□	□　年　□　月	

□□□□

職　　員　　調　（磐田見付分校）

（令和7年8月31日現在）

整理番号	職　　名	氏　　名	事 務 分 担	住　　所	勤務年数	摘　　要
1	教　　頭	織 部　恵 理 子	総括補助	□□□	□ 年 □ 月	
2	教　　諭	青　木　　瞳	高3主任	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
3	教　　諭	大 類　亜 美 里	高3	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
4	教　　諭	勝 又　賢 一	高 部主事	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
5	教　　諭	栗 田　翔 子	高3	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
6	教　　諭	杉 山　快 斗	高2	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
7	教　　諭	須 田　博 美	高3	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
8	教　　諭	鷲 見　美 佐	高1	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
9	教　　諭	髙　林　　崇	高3	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
10	教　　諭	竹 村　一 郎	高3	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
11	教　　諭	寺 田　容 子	高2	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
12	教　　諭	栩 木　孝 浩	高1	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
13	教　　諭	中 山　靖 治	高1主任	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
14	教　　諭	花 田　菜 々 子	高2	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
15	教　　諭	平 田　明 日 香	高2	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
16	教　　諭	松 井　祐 子	高1	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
17	教　　諭	山 口　麻 野 子	高2主任	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
18	養 護 教 諭	磯 部　万 莉 子	養護	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
19	主　　任	鈴 木　美 霞	庶務･会計	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
				平均年数	□ 年 □ 月	

付　　記

整理番号	職　　名	氏　　名	事 務 分 担	住　　所	勤務年数	摘　　要
1	教諭（臨）	村　松　　泉	高1	□□□	□ 年 □ 月	□□□□
2	非常勤講師	永 田　政 司	社会人活用 革工芸	□□□	□ 年 □ 月	
3	非常勤嘱託員	堀 越　大 輝	事務	□□□	□ 年 □ 月	
4	非常勤労務職員	上　村　　香	用務	□□□	□ 年 □ 月	
5	学　校　医	伊　藤　　基	内科	□□□	□ 年 □ 月	
6	学　校　医	梅 原　潤 一	耳鼻科	□□□	□ 年 □ 月	
7	学　校　医	鈴 木　寛 子	眼科	□□□	□ 年 □ 月	
8	学　校　医	増 田　静 恵	精神科	□□□	□ 年 □ 月	
9	学校歯科医	前 島　健 吾		□□□	□ 年 □ 月	
10	学校薬剤師	袖 岡　利 市		□□□	□ 年 □ 月	
11	健康管理医	牧　野　　章		□□□	□ 年 □ 月	

□□□□

職 員 の 年 齢 調

（令和７年８月31日現在）

年　　齢	人　　員			摘　要
	本　校	磐田見付 分　　校	合　計	
20歳未満	０人	０人	０人	
20歳以上30歳未満	28	2	30	
30歳以上40歳未満	54	5	59	
40歳以上50歳未満	41	6	47	
50歳以上56歳未満	12	5	17	
56歳以上61歳未満	7	1	8	
61歳以上	5	0	5	再任用　本校５人
計	147	19	166	平均年齢　本校　38.9歳 分校　42.7歳 全体　39.3歳

□□□□

健　康　管　理

1　令和６年度受診状況

区　　分	内　　容		
		本　校	磐田見付分　校
受診状況	受診者数	140人	18人
	職員数	146人	18人
受　診　率	100%		
県平均受診率	100%		

(1)未受診の理由

本校
□□□□□　５人
□□□　１人

分校
□□□□□　０人

2　令和７年度在籍者の健康管理区分結果

健康管理区分			人数(人) 本校	磐田見付分校	合計
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		0	0	0
B１	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要治療	0	0	0
B２		要経過観察	0	0	0
C１	勤務をほぼ平常に行ってよいが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要治療	0	0	0
C２		要経過観察	0	0	0
D１	平常の勤務でよい。	要治療	(46) 46	(3) 3	0
D２		要経過観察	(34) 34	(2) 2	0
D３		医療不要	(56) 56	(14) 14	0
区分者計			(136) 136	(19) 19	0
未区分者数			(7) 7	(0) 0	0
合　　計			(143) 143	(19) 19	0

(1) 管理区分Ａ～Ｃ２該当者に対する措置状況
　時間外勤務等をさせないように配慮するとともに、主治医より指示された通院治療を継続させた。

(2) 未区分の理由
ア　□□□□□
　本校　１人
　分校　０人
イ　□□□□
　本校　６人
　分校　０人
ウ　□□□□
　０人
エ　□□□□
　本校　０人
　分校　０人